



県測協 HIROSHIMA

2018年度

目次

挨拶

(1) 森脇 会長	1
(2) 平口 顧問	2
(3) 山木 顧問	3
(4) 狭戸尾 顧問	4
(5) 富樫 中国地方整備局企画部長	5
(6) 中島 国土地理院中国地方測量部長	6
(7) 三上 広島県土木建築局長	7

特別寄稿

(1) 国土地理院中国地方測量部 富田次長	8
(2) 広島県土木建築局 古川土砂法指定推進担当課長	12

経営者懇談会講演

(株)広島マツダ 松田会長兼最高経営責任者	14
-----------------------	----

合格奮闘記・体験記

復建調査設計(株)	34
-----------	----

社長・スタッフ投稿記事

ウムヴェルト(株)	35
(株)セトウチ	38

協会活動状況（平成30年1月～12月）

(1) 総会・理事会	40
(2) 委員会	43

中国地区協議会活動状況

中国地方整備局企画部との意見交換会	54
-------------------	----

賛助会員企業紹介

(1) 西尾レントオール(株)中国支店	56
(2) 福井コンピュータ(株)中四国営業所	58

関係機関との意見交換会概要

(1) 県（本庁・事務所長）	59
(2) 国（4事務所）	60

参考資料

CIM推進モデル業務の実施について	61
平成31・32年度の測量・建設コンサルタント等業務の 入札参加資格認定に係る主観的事項	62

会員名簿

(1) 会員名簿	63
(2) 賛助会員名簿	64

事務局だより	65
--------	----

編集後記	66
------	----



ご 挨拶

(一社) 広島県測量設計業協会
会長 森 脇 克 彦

新年あけましておめでとうございます。今年は亥年、無病息災の意味もある年で協会員皆さまが病気になりにくく元気な一年であることを願っています。

昨年は平成 30 年 7 月豪雨，台風 21 号，北海道胆振東部地震のほか北陸・福井豪雪，大阪北部地震等まさに漢字一字「災」とその年の世相を表されましたが自然災害の脅威を痛感した年でありました。平成 30 年 7 月豪雨災害の広島県内においては 109 名の方々の命が失われ，今なお 5 名の行方不明の方がおられます。心より哀悼の意を表するとともに被災された方に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を願っております。

全国で頻発する大規模な自然災害を踏まえ，国の来年度予算では 10 年ぶりの高水準となる 7 兆円規模の公共事業関係費が計上されます。「命を守る」ための重要インフラ整備などに充てる従来予算とは別に特別な枠が設けられます。国土の強靱化を実現していく上で安定的，持続的な公共事業関係費が確保されることへ期待するところです。

このたびの平成 30 年 7 月豪雨災害発生直後から被災箇所の現地調査，災害査定設計業務等，各協会員は膨大な災害箇所数の対応の要請を受け懸命に取り組んでまいりました。長年の厳しい環境下，技術者の高齢化あるいは担い手確保の問題等による災害の対応力は弱まっています。当協会としても最も重要かつ喫緊の解決すべき課題“将来の業界を背負う若手人材の確保”を念頭に我々が担う役割及び業務の意義や魅力を学校・地域社会にしっかりと PR することにより一人でも多くの学生が理解し入職してもらえるようその活動により一層取り組まなければならないと考えています。そのためにも適正な利潤を確保して安定経営が図られるよう協会活動に力を注ぎたいと思います。

「働き方改革関連法」，特に有給休暇の確実な取得及び時間外労働の上限規制の導入は罰則付きで今年の 4 月から施行（時間外労働上限規制は中小企業において 2020 年 4 月 1 日から）されます。同法により人手不足や災害対応への懸念が強く指摘されますが，この働き方改革にて処遇制度の改善，一斉ノー残業デーの実施，ICT の活用などを推進していく必要があります。結果として長時間労働の削減と品質が確保され生産性の向上に結ばれるものと期待しています。協会員におかれては魅力ある業界となるよう環境整備を進めていただきますようお願いいたします。

結びに，会員の皆様のますますのご発展を心より祈念して挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

(一社) 広島県測量設計業協会
顧問

法務副大臣 衆議院議員 平 口 洋

明けましておめでとうございます。

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様には、お元気で平成31年の初春をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。4月には今上天皇は退位され、代わって5月に今の皇太子殿下が新しく天皇陛下になられます。今年の初春は平成最後の初春になり、5月から新しい元号になりますが、大変おめでたいことです。そして、今年は亥（い）の年です。猪のように、バイタリティがあって前進する年であることを祈っております。

皆様は土地の調査と土木建築物の設計を通して、国土の強靱化と国民経済の発展に大きく寄与しておられ、深く敬意を表します。

昨年は災害の多い年でした。7月には西日本豪雨災害があり、続いて台風21号による災害や北海道地震などがありました。中でも西日本豪雨災害は、広島県をはじめ岡山県、愛媛県と広域にわたり、大きな被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表し、被災をされた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。広島県内では、山陽自動車道や国道2号、国道31号が通行止めになり、また、山陽本線や呉線、芸備線も通行不可となりました。このため呉市は孤立しました。

こうした中、測量設計業の皆様には、その持てる力を十分に発揮し、地域の復旧・復興の原動力となっていることに対し深く感謝申し上げます。お陰様で、道路、鉄道ともに早期に復旧することができました。ありがとうございました。11月7日には国の補正予算が成立し、復興にはずみをつけることができたと思います。今後は発生が懸念される南海トラフ巨大地震や首都直下型地震、国土強靱化基本計画などを視野に入れ、十分な役割を果たしていただきたいと思います。

社会のあらゆる要望に対応できる体制づくりを心がけ、国民生活の安全・安心に寄与することが測量設計業協会の役割です。今後も、国土強靱化基本法のもとで、地域の特性に応じた具体的施策を実行して行ってください。

貴協会の益々のご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



年頭のごあいさつ

(一社) 広島県測量設計業協会
顧問

広島県議会議長 山 木 靖 雄

新年明けましておめでとうございます。

広島県測量設計業協会の皆様方には、清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、この一年を振り返りますと、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震、さらに相次いで上陸した台風など、自然が猛威を振るい、大規模な災害が頻発しました。

本県の豪雨災害では、住宅や学校、病院、公共土木施設、社会福祉施設、農業用施設、商工業施設等の被害も大きく、道路や鉄道も多くのところ寸断され、県民生活や経済活動の基盤となるインフラにも多大な被害をもたらしました。

死者・行方不明者が百名を超え、県議会としても被災された方々の生活再建を急ぐとともに、復興に全力で取り組んでいるところです。

県政運営の基本方針2019において「将来に向けた強靱なインフラの創生」を掲げており、公共土木施設等の強靱化を進めて行かねばならないと思います。

- ① 二次災害防止を図りつつ、全力で復旧・復興に取り組む。
- ② 再度、災害防止の観点から、改良復旧に取り組むとともに、被災前の構造にこだわることなく、工法の選定をして、強靱化をはかる。
- ③ 土木全体としての優先順位を踏まえながら段階的に復旧し、3ヶ年で復旧完了を目指す。
- ④ 早急かつ確実な完成に向け、技術者等を確保するため県内業者への支援に取り組む。

以上のような取組方針を掲げ、復興に全力をあげております。

災害査定を進捗状況は、12月7日時点で、5割の災害査定が完了、12月末には約7割が完了し、1月末には完了するよう取り組んでいる。

不調・不落の発生状況は、平成30年度、土木建築局が発注した建設工事については、11月末時点で8.8%、このうち災害復旧工事に関しては14.8%であり、随意契約を締結するなど工事着手に遅れが出ないように取り組んでいるようです。

今回の災害で、土木技術者の不足が顕著になった事です。

土木工事の計画的な発注と予算組を長期的な観点から進めてゆく必要がある事がわかりました。

ため池について、5000ヶ所の廃止が計画されていますが、将来の変化を読み取りながら、事業実施する事が大切であると考えます。

本年も多くの課題が出てくると思われますが、官民共同で努力し、すばらしい広島県になるべく、努力してゆきましょう。

本年もすばらしい年になりますよう祈念して御あいさついたします。



新年のごあいさつ

(一社) 広島県測量設計業協会
顧問
広島県議会議員 狭戸尾 浩

広島県測量設計業協会の皆さま，新年明けましておめでとうございます。今年もお健やかな新春を迎えられたこととおもいます。

心よりお慶びを申し上げます。

昨年は，広島県各地で観測史上最大となる降水量を記録した「西日本豪雨災害」が発生しました。被災された方々に衷心より哀悼の意を捧げますとともに心よりお見舞いを申し上げます。

近年の災害は，いつ何時起こるか分からない状況にあり，この度の災害は，広島県民282万人に土石流の発生・河川の氾濫などにより道路・鉄道等の交通網と電気・上下水道などの生活インフラにより大きな支障をきたすこととなりました。

被災した公共土木施設や上下水道などの応急復旧につきましては，広島県測量設計業協会の皆さまには昼夜を問わずにご協力をして頂いております。

心より御礼を申し上げます。

また，土砂法にかかる指定調査も目標達成のために引き続きよろしく願いを致します。

また，悲しいことばかりではなく嬉しいこともありました。昨年9月には，全国を真っ赤に染めた“広島東洋カープがセリーグ3連覇”と達成し，広島県民に元気を与えてくれました。

本当に広島県を，日本中を元気にさせてくれる活躍でした。

来る4月30日に天皇陛下がご退位され，平成の幕を閉じることとなっております。

5月1日には，皇太子殿下が即位されることも決まっております。

私も新しい年に向けて干支のイノシシのように，猪突猛進で頑張ってまいります。

広島県測量設計業協会のますますのご発展と皆さまのご健勝・ご多幸さらなるご活躍を心よりご祈念申し上げまして，新年のご挨拶とさせていただきます。

今年度も引き続きよろしく願い申し上げます。



新年のご挨拶

国土交通省 中国地方整備局
企画部長 富 樫 篤 英

新年、明けましておめでとうございます。

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様方におかれましては、平素より国土交通行政に対してご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は全国各地で大きな災害が発生し、とりわけ7月豪雨は中国地方に甚大な被害をもたらしました。被害を受けられた皆様に関心をお見舞いを申し上げます。

さて、昨年の災害では、中国地方で死者・行方不明者 181 人、住宅被害は 35,000 棟を超える大きな被害が発生しました。中国地方整備局では、発災直後から直轄施設の応急復旧を行うとともに、全国の整備局からの T E C - F O R C E（緊急災害対策派遣隊）を結集し、被災自治体の支援を精力的に行っていました。

貴協会におかれましても、災害発生直後の情報収集、被災状況の把握に努めていただきました。更に、広島県における約7千箇所の災害箇所調査・申請資料作成にあたって、全国からの応援も得ながらご尽力をいただいていることを心よりお礼申し上げます。

一方、我が国では少子高齢化や人口減少による生産年齢人口の減少が著しく、建設業界においても担い手の確保が、重要な課題となっているところです。新年度から改正労働法が適用されることもあり、建設コンサルタント業界における働き方改革は待ったなしの状況にあります。

このため、中国地方整備局では、業務の「適切な工期設定」や「履行期間の平準化」を進めるとともに、受注者のワークライフバランスに配慮した資料作成依頼等を行う取り組みとしてウィークリースタンスの実施に取り組んでいるところです。

また、生産性・安全性を向上させるための取り組みとして、ICT活用工事やBIM/CIMの活用等「i-Construction」の取り組みを推進しているところです。更にICTの活用を進めていくためには、設計段階で3次元データを作成するフロントローディングの取り組みが重要になってまいります。この取り組みの推進にあたっては、様々な課題の解決や技術改良等の創意工夫が必要となりますので、是非、皆様方と一緒に、検討して参りたいと思っています。

最後に、皆様方と私どもが、「良きパートナー」として、しっかり手を携え、我が国の立派な社会資本を作っているのだという誇りをもって、事業推進に努めて参りたいと考えております。皆様方が本年も益々ご活躍されることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ

国土交通省 国土地理院
中国地方測量部長 中島 最 郎

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

一般社団法人広島県測量設計業協会におかれましては、日頃より地域社会に根ざした真摯な活動を推進され、広島県内の測量設計業の健全な発展のために多大な貢献をされていることに、心から敬意を表したいと存じます。また、会員の皆様におかれましては、国土地理院の業務に格別のご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

今年は、日本の近代測量事業の開始から 150 年の節目になります。明治政府が国家統治に必要な最も基本的な情報として、全国統一の基準で地理空間情報の整備を企図し、1869 年（明治 2 年）に民部官庶務司戸籍地図掛の設置以来、全国を網羅した測位や地図作成等が行われ、様々な組織を経て現在の国土地理院に受け継がれて、皆様方と共に測量分野を担っています。この 150 年の節目に先人の遺した成果を振り返ることに加え、今後は専門家が地道に実施する測量にとどまらず、一般国民が広く測位や地図を利用していく観点に立って、将来の測位・地図を見据えた測量政策に取り組んでまいります。

我が国における自然災害は益々激甚化しており、昨年も広島県を始め多くの被害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨や、最大震度 7 を記録した北海道胆振東部地震、非常に強い台風 21 号・24 号の上陸など度々災害に襲われました。この災害で犠牲となった方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

国土地理院としても災害発生時の被害状況把握のために、空中写真を始め様々な情報を精力的に関係機関に提供しました。更に重要なことは被災現場の状況を迅速かつ的確に把握することです。そのためにも地域の測量設計業界の方々のお力添えがなくては為し得ないことです。そして復旧・復興においても、建物や社会資本の復旧・整備を進める上でも基礎的な業務である測量をしなければ、為し得ることができません。

今後の防災・減災の実現についても普段から地理空間情報を活用し、災害への「備え」をより充実させ、少しでも被害を少なくする事が不可欠です。

災害はいつ発生するか分かりませんが、地域に根差した測量設計業界は防災や災害時に非常に大きな役割を担っていますので、引き続きご協力をお願い致します。

国土地理院も国民の防災力の向上や地理空間情報高度活用社会の実現に向け、「国土を測り」「国土を描き」「国土を守る」活動を国民に広く知って頂くために様々な活動を通して貢献していきます。

最後に自然豊かな広島県民のみなさんが安全・安心に暮らしていくためにも、貴協会と会員の皆様の更なるご活躍・ご発展を心から祈念しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

広島県土木建築局長 三 上 幸 三

新年、あけましておめでとうございます。

平成最後の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

一般社団法人広島県測量設計業協会並びに会員の皆様には、平素から広島県の土木建築行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年7月に西日本を襲った記録的な豪雨では、県内各地で土砂崩れや河川の氾濫等が発生し、住宅被害をはじめ、道路や鉄道の寸断、水道の断水など県民生活や経済活動の基盤となるあらゆるインフラに甚大な被害が発生しました。改めまして、豪雨災害により犠牲となられた方々に対して、衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

また、会員の皆様におかれましては、昼夜を問わず災害復旧に係る測量・設計業務等に御尽力いただいたことに、重ねてお礼申し上げます。

本県では、発災直後から、災害対策本部を立ち上げ生活支援や被災地における二次災害の発生を防ぐための応急復旧を最優先で進めてまいりました。その後、災害復旧・復興本部に移行させ、本格的な災害復旧・復興へとフェーズを切り替え、被災者支援やインフラ復旧等に取り組んできたところでございます。

今後、これらの取組を更に加速させていくため、中長期的な視点も踏まえ、基本的な考え方と具体的なロードマップを取りまとめた、「安心を共に支え合う暮らしの創生」「未来に挑戦する産業基盤の創生」「将来に向けた強靱なインフラの創生」「新たな防災対策を支える人の創生」の4つの柱からなる『平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興プラン』を策定いたしました。

このうち、「将来に向けた強靱なインフラの創生」につきましては、県民の皆様の生活基盤であるインフラについて、今回の災害からの復旧・復興を単なる原状回復に終わらせるのではなく、被災前の状態より更に良い状態へと目指して、再度災害防止の観点から、改良復旧等の積極的な活用などにより、公共土木施設の強靱化に取り組むこととしております。

また、昨年は、平成28年6月豪雨の災害関連緊急事業等が完了するなど、安心な暮らしづくりに資する取組を進めるとともに、一般国道313号 神辺バイパスや山陽自動車道 福山SA スマートICの開通など、新たな経済成長に資する社会資本整備を着実に推進したところでございます。

さらに、社会資本の適正な維持管理を進めるために、県土保全対策に重点的に取り組むとともに、関係者の皆様と連携して「ひろしま建設フェア2018」を開催するなど、建設産業における担い手確保・育成への取組を強化したところでございます。

引き続き、「ひろしま未来チャレンジビジョン」が目指す県土の将来像の実現に向けて、「社会資本未来プラン」に基づく取組を計画的に推進してまいります。

貴協会の皆様には、社会資本整備に不可欠な測量・調査・設計業務という役割を担っていただいているところであり、このような本県の土木建築行政の施策推進に、引き続き御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新年の門出に当たり、貴協会の益々の御発展、並びに会員の皆様の御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



国土地理院中国地方測量部が高校生の防災学習を支援

国土地理院中国地方測量部

次長 富田 浩之

平成30年度は、「平成30年(2018年)大阪府北部を震源とする地震」、「平成30年7月豪雨」、「平成30年(2018年)北海道胆振東部地震」などにより各地に大きな被害をもたらされ、全国どこでも災害が発生しうることが示されました。特に、中国地方においては、広島県、岡山県を中心とした「平成30年7月豪雨災害」が歴史的な大災害として記憶に刻まれることになりました。

国土地理院中国地方測量部では、「平成30年7月豪雨災害」にあたり、国土地理院(つくば市)及び国土地理院の各地の地方測量部と連携・協力しながら、空中写真の撮影や被災地の情報収集を行うとともに、空中写真をはじめとする各種の地理空間情報について被災地を所管する関係防災機関へ迅速に提供してきました。この災害対応の中から主な取組の一部を紹介します。

○空中写真の緊急撮影および提供について

国土地理院では大規模災害時に、被災状況を正確かつ迅速に収集・把握することを目的に、発災直後に「緊急撮影」を実施しています。緊急撮影では、主に測量用航空機に搭載された測量用航空カメラを用いた空中写真撮影を実施しています。



測量用航空機(くにかぜⅢ)による空中写真撮影のイメージ(左)と搭載中の航空カメラ(右)

あらかじめ、撮影ポイントを定めて、そのポイント上で垂直に1枚ずつ空中写真を撮影していきます(図1)。この写真のことを「垂直写真」(図2)と呼



びます。

(図1) 空中写真撮影時の飛行コース (7月15日撮影 関東地区) と各写真の中心位置 (青丸)



(図2) 垂直写真の例



垂直写真の拡大例 (JR 水尻駅付近)

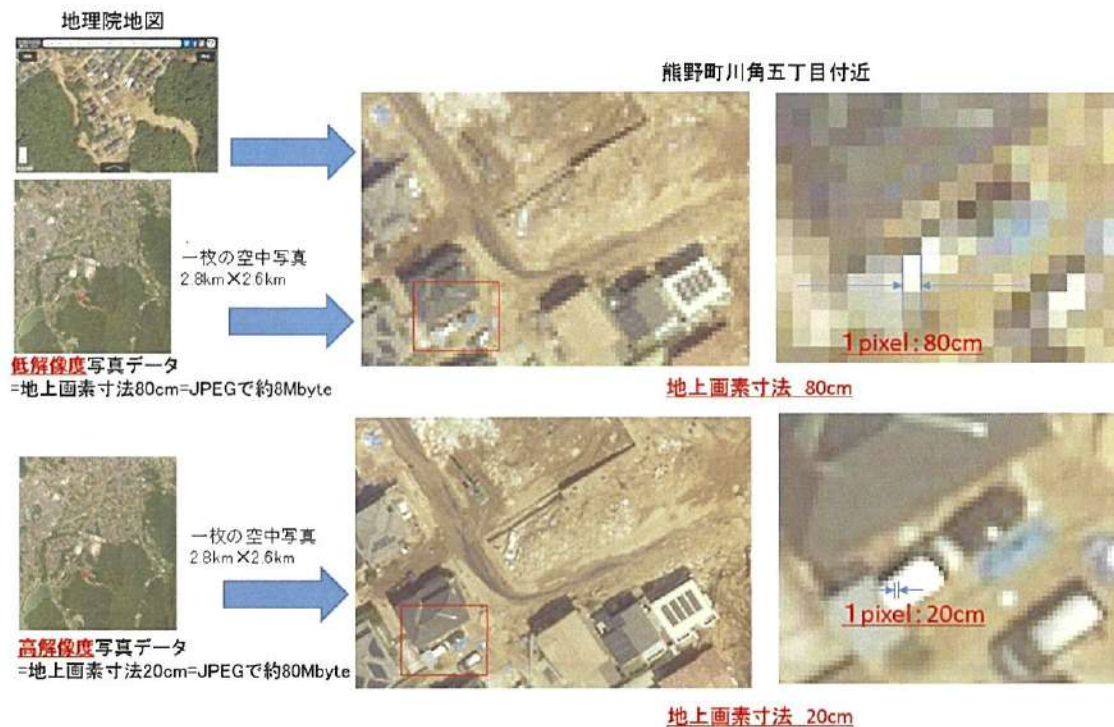
この「垂直写真」は写真の周辺部ほど歪みが大きくなる性質があります。これと併せ、一枚毎の空中写真では、被災地の位置の特定が難しいため、撮影エリアごとに地図と一致するように画像処理を施して歪みを修正し、地図に重ねて表示することができる「正射画像」も作成しました。このことにより他の情報と重ねて表示ができ、さまざまな情報を整理することができるようになります。

完成した写真データは中国地方測量部管内の関係機関である中国地方整備局、広島県、岡山県、山口県、及び被災した各市町へ提供しました。

また、写真データの容量が、一地区 (一度の撮影の単位であり、同時に撮影

範囲も表す)あたり、数ギガバイトに及ぶことが多かったことから、写真データは複数枚のDVDに保存し、各機関に提供しました。DVD作成にあたっては、DVDへの保存にも時間がかかることから、各地区の写真データの完成の都度、中国地方測量部職員総出で、国土地理院(つくば市)からのネットワーク経由でのファイルコピーと、関係機関分のDVDへの焼き付けを分担して行いました。このようにして平成30年7月豪雨災害対応で焼き付け、提供したDVDは合計600枚以上に上ります。

空中写真や正射画像の関係機関への提供は、地上解像度20cmの高解像度写真(図3下段)と解像度80cmの低解像度写真(図3上段)の双方を同時に提供するとともに、空中写真の活用方法についての説明を行い、提供した写真は、被災状況の把握や災害査定、罹災証明等の参考資料として利用されました。



(図3) 地上解像度20cmの高解像度写真、80cmの低解像度写真の見え方の例

撮影は、地区毎に発災後天候が回復次第(雲があると下の地表部分は雲に隠れて全く写らないため、雲の状況も逐次調査し撮影します)を行い、その都度国土地理院のホームページへの掲載や関係機関への提供を最速で実施しました。

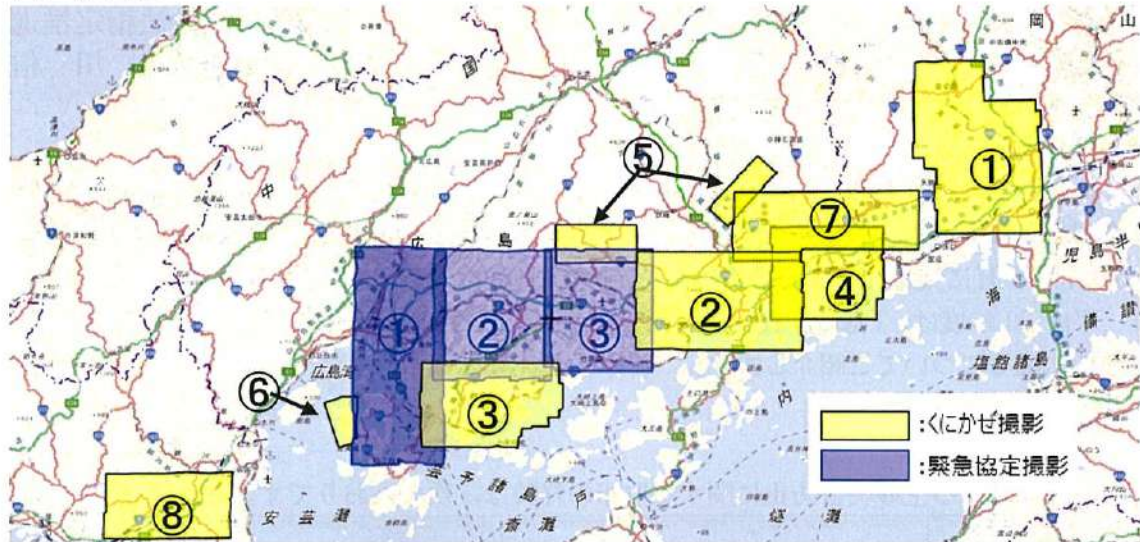


空中写真提供時の様子



空中写真提供時の様子

参考までに各撮影地区の撮影日と中国地方整備局への提供日を掲載いたします。(図4)



地区名 (緊急協定)	撮影面積等	撮影日	垂直写真 提供日	正射画像 提供日
① 広島坂町	464km ² 11コース 846枚	完了 7/9・11	完了 7/12・14	完了 7/14・15
② 東広島	413km ² 16コース 796枚	完了 7/10・11・14	完了 7/13・17	完了 7/17
③ 竹原三原	407km ² 16コース 864枚	完了 7/10・11・12	完了 7/12・14・15	完了 7/15・18
地区名 (くにかぜ)	撮影面積等	撮影日	垂直写真 提供日	正射画像 提出日
④ 高梁川	360km ² 16コース 285枚	完了 7/9・11・12	完了 7/10・14・15	完了 7/14・18・19
⑤ 三原尾道	400km ² 9コース 264枚	完了 7/13・15・16	完了 7/16・20・23	完了 7/16・24
⑥ 呉東部	250km ² 8コース 200枚	完了 7/13・15	完了 7/16・24	完了 7/19・25
⑦ 福山	200km ² 8コース 144枚	完了 7/13・16	完了 7/17・25	完了 7/25
⑧ 三原北部	60km ² 5コース 69枚	完了 7/15	完了 7/21	完了 7/21
⑨ 江田島	10km ² 2コース 27枚	完了 7/16	完了 7/19	完了 7/19
⑩ 福山北部	230km ² 6コース 169枚	完了 7/18	完了 7/26	完了 7/27・30
⑪ 岩国	170km ² 6コース 134枚	完了 7/19	完了 7/26	完了 7/27・30

(図4) 各撮影地区の撮影日と中国地方整備局への提供日

このほか、空中写真については、被災前後の比較ができるページ(図5)や立体地図を表示できる機能(図6)を地理院地図上に公開しています。



土砂災害防止法に基づく基礎調査の加速化について

広島県土砂法指定推進担当
課長 古川 信 博

1 はじめに

広島県では、平成 26 年 8 月 20 日に発生した土砂災害を踏まえ、土砂災害防止法に基づく基礎調査及び区域指定の加速化を図っており、小学校区を単位とする「基礎調査実施計画」を平成 27 年 3 月に策定し、完了目標年次を定めて計画的に取り組んでおります。

平成 30 年度は、「基礎調査実施計画」に基づく基礎調査の最終年度となることから、現在の進捗状況等についてご紹介します。

2 これまでの経緯

本県における土砂災害防止に関する取組の経緯は、次のとおりです。

年月日	内 容
H11. 06. 29	6. 29 土砂災害の発生（6 月 29 日の梅雨前線豪雨により、広島市安佐南区、安佐北区、佐伯区及び呉市を中心に土砂災害が発生し、24 名の尊い命が犠牲）
H12. 05. 08	「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）」の制定（H13. 04. 01 施行）
H15. 03. 31	本県において、全国初の土砂災害警戒区域等の指定を実施（13 区域） （広島市安佐北区可部町勝木、佐伯区五日市町上河内）
H26. 08. 20	8. 20 土砂災害の発生（8 月 19 日～8 月 20 日の前線豪雨により、広島市安佐南区及び安佐北区を中心に土砂災害が発生し、77 名（災害関連死を含む）の尊い命が犠牲）
H26. 11. 19	土砂災害防止法の改正（H27. 01. 18 施行）（基礎調査結果の公表、警戒避難体制の充実・強化、基礎調査の計画的かつ迅速な実施（おおむね 5 年程度で基礎調査を完了））
H27. 03. 31	「基礎調査実施計画（H27～H30）」の策定・公表 （小学校区を単位とする基礎調査の実施計画を、市町と協議し策定）
H29. 02. 15	土砂災害防止法に基づく基礎調査予定箇所抽出 （土砂災害警戒区域総数の推計値が、約 49,500 箇所となる見込みであることが判明）
H29. 03. 30	土砂災害防止法に基づく基礎調査予定箇所の公表（県HP「土砂災害ポータルひろしま」上に、“今後、基礎調査を実施する予定の箇所”の地図情報を公表）
H29. 04. 19	土砂災害警戒区域の市町別推計値の公表（H29. 04. 19 時点で確定した全県の推計値の総数（49,541 箇所）と、市区町別の推計値を公表）

3 完了目標年次

「基礎調査実施計画」では、次のとおり完了目標を定めて調査を実施しております。

- 基礎調査の完了目標：平成 30 年度末まで
- 区域指定の完了目標：平成 31 年度末まで

4 進捗状況

「基礎調査実施計画」の進捗状況は、次のとおりです。

（単位：小学校区）

区分	年次	H26 迄	基礎調査実施計画（H27～H30）					H31
			H27	H28	H29	H30		
						12月末時点	年度末予定	
基礎調査 （H30 末まで）	実績	73	99	91	98	89	89	
	累計	73	172	263	361	450	450	
区域指定 （H31 末まで）	実績	69	34	59	97	55	(102)	(89)
	累計	69	103	162	259	314	(361)	(450)

注：（ ）内は、各年度の目標値である。

5 基礎調査の効率化

平成 30 年 7 月豪雨災害の発生により、災害対応業務を優先するため基礎調査業務を 12 月末まで一時中止しておりましたが、1 月から再開することとなりました。

再開にあたっては、一時中止期間の影響を回避するため、次のとおり基礎調査業務の効率化を図っております。

(1) 平成 30 年度 調査結果公表に向けた効率化策

平成 31 年 1 月からの業務再開後、円滑な基礎調査結果の公表を行うため、基礎調査業務の進捗状況に応じ、基礎調査成果作成手順を次のパターンに見直しを図り、平成 30 年度末までの基礎調査結果公表に向けた業務の効率化を図ることとします。

区 分	内 容
通常パターン	従来どおり、基礎調査調書作成、最終照査を完了し、基礎調査成果を提出
パターン 1	現地調査が完了した段階で公表資料を提出し、公表後に基礎調査調書作成、最終照査を完了し、基礎調査成果を提出
パターン 2	机上設定が完了した段階で公表資料を提出し、公表後に現地調査、現地調査結果の反映、基礎調査調書作成、最終照査を完了し、基礎調査成果を提出

(2) 平成 31 年度 区域指定完了に向けた効率化策

7 月豪雨災害を受け、8. 20 土砂災害を踏まえて基準を見直した土石流の土砂災害特別警戒区域の設定に用いる想定流出土砂量について検証した結果、近似式による流出土砂量の妥当性が概ね確認できたことから、溪流内の現地調査を省略することとします。

6 おわりに

7 月豪雨では県内各地で土砂災害が多発し、土砂災害警戒区域等の中でも多くの犠牲者があったことから、本県がこれまでに示してきた土砂災害のおそれのある区域の情報が、必ずしも避難行動につながっていないことが課題として明らかとなりました。

そこで、学識経験者等の有識者からなる「平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」を設置し、土砂災害防止法の区域指定や警戒避難体制の整備について、7 月豪雨における土砂流出の影響範囲と土砂災害警戒区域等の関係を検証し、区域指定のあり方を検討してまいりました。

今後は、「あり方検討会」での検討結果を踏まえ、基礎調査結果の公表に合わせた土砂災害ハザードマップの全戸配布や、民間アプリを活用して土砂災害警戒区域等の情報を提供する「知る」取組を充実するとともに、自主防災会連合会等を対象とした防災教室の開催や、高齢者を対象とした防災パンフレットの病院等への設置などの「啓発」の取組を強化し、避難につながる取組の推進を図ることとしております。

これらの新たな取組を推進するためには、「基礎調査実施計画」に基づく基礎調査を目標どおり完了し、区域指定を着実に進める必要があります。

協会員の皆様におかれましては、限られた資源を最大限に活用し、7 月豪雨災害からの県土の復旧・復興に全力で取り組んでいただいているところですが、基礎調査及び区域指定の加速化についても、土砂災害から県民の生命及び身体を守るための重要な取組でありますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成30年度 経営者懇談会

日 時：平成30年12月6日(木) 15:30～

会 場：ひろしま国際ホテル 3階「パール・ルビー」

講 師：株式会社広島マツダ

代表取締役会長 兼 最高経営責任者 (CEO)

まつ だ てつ や
松 田 哲 也 様

演 題：「おりづるタワーに込めた思い」

～広島未来を見据えたまちづくり～

講演録

ただ今ご紹介をいただきました、株式会社広島マツダの会長をしております松田でございます。

錚々たる皆さまの前でお話しするのは恐縮ですが、「おりづるタワー」についての話をさせていただく機会も最近減ってきましたので、折角ですとお時間をちょうだいして、私の思いを皆さまに聞いていただければと思っています。

それでは、最初に「おりづるタワー」の動画をご覧ください。

V T R

結局、何が言いたいのかというと、私は広島の皆様へ恩返しをしたいということと、広島をもっと面白くしなければならぬということです。このために今仕事や生活をしていますし、これが私の人生の結論だと考えています。

今、広島県を改めて分析をしてみますと、人口が47都道府県の中で12位、面積が11位、名目GDPも12位ぐらいです。バブル崩壊後、GDPはベトナムが広島県のちょうど2倍以上、シンガポールも3倍以上になっています。つまり、広島県はずっと横ばいで停滞をしていて、今はアンゴラやウクライナと同等規模になっているということです。また、これも釈迦に説法かもしれませんが、人口の減少を表したものです。2000年くらいから自然減、社会減の時代に入りました。特筆するのは、この社会減の部分です。この社会減というのは、転勤、転出を表しています。広島はバブルの時代から社会減が増えていっているということが挙げられます。直近を少し調べてみましたが、東京、そして3位に福岡、そして愛知、宮城が転入超過になっております。地方の中心都市というのは、やっぱり流出、流入してくるんですけども、広島は2,786人、47都道府県の中では35位で、減っています。隣の岡山県は逆に少しだけ増えています。ですから、広島地の盤沈下というのは紛れもない事実だと思います。34位はちなみにどこだと思いますか、山形県ですね。だから、我々が中山間地域だと思っている所と同じくらい、広島というのはもう増えていません。これが厳然たる事実です。

広島は特徴があります。大阪や東京という大都市圏に皆様が出て行ってしまおうとい

うこと、そして、中国地方や四国から、大学入学等が入ってくるということです。こうした社会減は、広島が魅力的であればもっともって増えていくはずですが。しかし、東京とか大阪のように大都市になるのはもう難しいでしょう。ですから、少し変わった個性を発揮して、全く大都市とは違う捉え方をするほうがいいのではないかと思います。

広島の特徴をもう少し挙げてみますと、旅行口コミ Web サイト「トリップアドバイザー」によると、外国人に人気の日本の観光スポットランキングは、6年連続で第1位が京都の伏見稲荷大社ですが、第2位が原爆ドームと平和記念公園、そして第3位が宮島、第4位が東大寺でした。その他、美ら海水族館やスカイツリー等がランクインしています。つまり、日本に名立たる観光施設が多数あるなかで、6年連続、2位、3位は広島県が占めているのです。外国人が行ってよかった。それだけの文化遺産、観光遺産というものを、我々広島は持っているということです。もう少し詳しく見てみますと、お好み焼き店舗数が全国1位です。そして広島は欧米人観光客比率が圧倒的に高い。一方で、アジア人の観光客比率が47位ということで最下位なのです。

広島は平和の街、平和の県と言いながら、やはりアジアの人たちから見ると平和ではなくて、戦争の町、原爆の町、戦前の町とされています。一方で、多くの欧米人の方々が訪れる街です。更には、ボランティア活動参加率も全国1位だそうです。ですから、広島のこれからの在り方は、海外の方々にボランティアを中心とした見せ方をしていくことも1つのキーワードになるのかなという気がします。

こうした「トリップアドバイザー」にも挙げられた場所であり、県内に2つの世界遺産がありながらも、原発、地震、意識、治安、教育、医療技術、インフラ、英語、民度等々、住みたい広島にしていくには課題がありますけれども、そして全体的にいうとホスピタリティの意識を高めていくことが、これからの広島には大切になってくるのではないかと思います。

もちろんカーブやサンフレッチェ、そして今私が個人的に応援しているドラゴンフライズ等々、スポーツの文化も広島の特徴だと思います。今年の夏は、秋田県の金足農業高校が旋風を巻き起こして準優勝したのは記憶に新しいところです。プロスポーツチームが複数あって盛り上がっていきけるのは、素晴らしい文化遺産だと思います。

移住したい県のアンケートを抽出したら、広島県は60代の第5位に入っています。1位は沖縄、続いて北海道、東京となっていますが、広島はいいところにつけていると思います。

さて、ようやく私どもの会社の紹介に入ります、私どもの会社、広島マツダは今年で創業85周年を迎えました。1933年、昭和8年に創業し、正社員数は今583人です。広島県内に20拠点を持つ自動車販売会社、自動車ディーラーであります。私が会長で、濱中という者が社長をしています。こうしたマツダ車を売っています。皆さまにも大変お世話になっています。自動車ディーラーが私の本業ですので、マツダの車のご用命があれば、是非、私に声を掛けていただければと思います。

やはり地元ですので、マツダの車を販売、発展していくことが広島の経済に直結するというので、我々は信じて日夜こうしたものを売っています。直近では、アウト

レットの前にある石内山田店、尾道山波店、そして可部店をオープンさせました。マツダだけではなくて、ボルボやロータスといった輸入車も扱っておりまして、去年、今年と新しく店をリニューアルしています。

私ども広島マツダの特徴は、やはり歴史と伝統であります。次に、不動産事業等の多角経営を推進しているということが挙げられます。最近経営は順調で、5期連続売上げ200億円を突破し、おかげさまで23年連続黒字を達成しています。直近は7年連続で経常利益7億円以上を達していますが、マツダの第6世代が多くいて、何とか経営も成り立っていくようになってきました。

私が入社してからの直近の23年は、最初はデフレの時代で、売上げが下がりながらもなんとか利益を出すようにバランスをとってきて、ちょうど100期を終えました。現在101期になっておりますけども、お陰様で順調であり、リーマンショックや東日本大震災があっても何とか黒字をずっと維持できるような体制になってきました。

最近では、売上げが減っても利益を上げていくというようなやり方ではなくて、いろんなグループ会社を増やして行って、売上げも利益も上げていこうというような体質に、この10年くらいで舵を切り替えています。その軸となっているのが事業の多角化です。私はJ Cを卒業した2009年以降、新しい事業を拡げています。これは自動車部門だけではなくて、全く新しい、全く異業種を新規で立ち上げたり、M&Aをしたりというふうに様々な方法で事業拡大しています。

例えば「P. T. I.」、これはM&Aです。後継者のいらっしゃらない社長さんにお声掛けをいただいて会社を引き継ぎました。日本は左側通行右ハンドルであり、旧イギリス統治領の国と同じです。イギリスに倣った道路事情ですが、同じように左側通行右ハンドルの国に日本の中古車をどんどん輸出している会社を引き継いでいます。マレーシア、シンガポール、ニュージーランド、オーストラリア、スリランカといった国に月に200台くらいの車を輸出しています。ちなみにこの会社の社長である赤井さんは、浪速のロッキーこと赤井英和さんのお兄さんです。

中古車の輸出だけでは飽き足らず、そうしたご縁でニュージーランドに中古車の直売センターを作ろうということで、3年前にニュージーランドのオークランドに直売センターを作りました。今、英語の勉強を兼ねて2人の社員を派遣して、学校に行かせながら向こうでサービスを続けています。

更に、これも10年くらい前ですが、合弁会社を作って、オフショアソフト開発、システム開発というものを立ち上げました。私は35歳で社長になりましたが、30歳を過ぎた頃に、これからは中国の時代だということで中国に進出したいくて、そしてコンピューターの時代だということで、とにかくやってみようということで始めた事業です。現在も何とか生き残っています。

そして、皆様方はあまりご存知ないかもしれませんが、奥様方はご存知かもしれません。「ザ・ステージ」という、この国際ホテルの目の前にあるアパレルの女性用の洋服屋があります。ミセスを中心とした高級な洋服屋です。その社長が、後継者がいらっしゃらないということで私どもにお声掛けをいただいて4年前から事業を引き継いで、今アパレルの経営もやっています。最初は、うちの女性の営業スタッフが、

後々アパレルで売り子をやってもらって、人員交流ができると考えていましたが、やはりなかなか難しいですね。

先ほどの中国のソフト開発の話に戻るのですが、そこから新しくブローダという、日本の開発会社を立ち上げました。これが何をするかというと、主には携帯電話のアプリケーションを作っています。この会社で開発しているのは、先ほど森脇会長と名刺交換をさせていただきましたが、紙の名刺をなくしてしまおう、もう全部携帯の中に入れてしまおうということからの発想で作ったアプリケーションです。

V T R

このアプリは「PiQy(ピッキー)」といいまして、”pick up” すなわち拾い集めるところから作ったアプリです。去年の2月、新しく作った会社ブローダからリリースしました。紙の名刺をなくして、携帯の中にもろんな情報が入られるわけですね。顔写真、住所、趣味、仕事内容等々何でも入れられるので、無限大の情報を入れられます。これらの情報を、相手にスワイプすること渡せるんですね、自分のアカウントの情報を更新すると、交換した先に常に最新の情報が入ります。課長が部長に昇進したり、勤務先が東京に異動になったりしても、交換先は常に最新の名刺が手元にあるということです。そこから年賀状を出したり、挨拶したりできます。更には顔認識システムがありまして、例えば、「あの人、顔は覚えているけど誰だったっけ」と思った時に、顔だけで検索できたり、「あの人、東京で名刺交換したんだけど、そこまでしか覚えていない」というと、「東京」という位置情報で検索できたりします。私自身、整理整頓が下手なので、こういったアプリを作ろうと思い立ちました。

夢のような革命的な利便性で、自信を持って送り出しましたが・・・「PiQy」をご存知の方いらっしゃいますか？いらっしゃいませんね。リリースしてもう2年になりますが、この会場には誰もいらっしゃいませんよね。全然広まっていないということです。開発に1億2,000万円ぐらいかかり、まだまだ全然回収できてない失敗事業ですが、最後のあがきで皆様にご紹介をさせていただきました。こうした機能を持ったアプリが無料でダウンロードできますし、何より紙の名刺を使わないことで環境保護にも繋がるということです。

これもリリース直後は結構話題になりまして、Yahoo!のトップページに出たり、ニューズウィークが取り上げてくれて、見開き2ページで特集を組んでいただいたりと、最初は大きく話題になったんです。私も調子に乗って、「PiQy」にかけてベッキーにCMを依頼しようとしたのですが、ベッキーは高いし、ちょうどこの頃は例の件で謹慎中でした。そこで、ベッキーの妹さんがダンスの世界的な権威ということで、妹さんに快諾していただいて、CMを作成して流しました。これも皆様全く見たことがないと思いますので、ご披露させていただきます。

V T R

ありがとうございました。カッコいいでしょう。やはり一中小企業では作るだけで精一杯で、そこからなかなか宣伝費を捻出できず今に至っています。何かきっかけがあればヒットに繋がらないかなと思っているうちに、「Eight」や「Sansan」等の名刺

アプリにも「PiQy」の機能がどんどん追加されて、「PiQy」自体の個性がなくなり、どうしようかなと思っています。誰か事業を引き継いでくださる人がいればいいのですが・・・。

私は趣味のように会社を作るようになりまして、今や広島マツダグループには17の会社があります。2018年以降に主に事業を4つ増やしました。1つ目がロータス。私も「サーキットの狼」のスーパーカー世代ですから、このロータスの話をいただいて実現し、今に至っています。

そして、マツダは以前フォードを取り扱っていましたが、フォードは日本を撤退しました。庚午店の隣のパチンコ屋を購入して、そこを改装して並行輸入の中古車を置いて売ろうかな、並行輸入したアメ車を中心に販売していきます。この事業は立ち上がったばかりです。まだ1台しか売れていませんが、ご用命があれば豪快なアメ車を輸入しますので、個人的にお声掛けください。

そして、これもちょっと変わった事業なんですけど、これも先ほどのIT関係への進出をきっかけに手がけた、先々月発表したばかりの「La-Lux(ラ・ルックス)」という会社の「RAY FLOWER」という事業です。こちらは3Dプロジェクションマッピングを開発する会社です。3Dをプロジェクションマッピングでのお葬式演出を販売していること目論んでいるものです。この前展示会に出しました、その一部の模様をご覧ください。

こちらは全てプロジェクションマッピングです。お葬式って生花とかお金かかりますよね。こちらはプロジェクションマッピングで壁に投影するだけです。

V T R

如何でしょうか。明朗会計でもっと安くお葬式ができる、プロジェクターとスクリーンさえあれば、白い壁さえあればもう映すだけでお葬式ができてしまう。こういう会議室とかホールとか小規模な家族葬向けに、こういったものがこれからは需要があるのではないかと考えて開発をしました。もちろん、当然のことながら、まだ1社も契約ができていません。絶賛営業中であります。何かお葬儀屋さんのお知り合いがあれば紹介してください。よろしく願います。

そして、そういったものを開発する「ディジフュージョン・ジャパン」という会社が、この夏から我々のグループに入り、こういった3Dプロジェクションマッピングを開発してもらうように、M&Aで合意しました。これが今の最新の事業ですね。

そして広島マツダのブランドアップということで、「HM Racers」というレースチームも作りました。これが、お金をどんどん垂れ流していくことになっていきますが・・・

V T R

ということで、レースを去年から始めました。少子高齢化と車離れでなかなかいい人材が採用できない中でも、私たちの業界でも皆さま方と同じようにまず地元志向、広島で仕事がしたい若者を増やしたい。そしてその中で自動車が好きな人、更なる中で、トヨタ、ホンダ、日産といった我々よりももっと大きくてブランド指向が強い会社に逃げられがちですが、そういった若者をどうしてもマツダ陣営に引っ張りたい。

そのためには同じ自動車だけで勝負してもダメですが、私たちは物を作れるわけではありませんので、こうして事業を多角化して、そして更にレースもやってブランドイメージを高めていこうという気持ちでやっています。

ということで、少し長くなりましたけれども、自動車事業や自動車以外の事業も含めて、様々な分野に事業を拡げているのが広島マツダであります。その多角化の象徴が、「おりづるタワー」ということになります。

この会場の中で、「おりづるタワー」の展望台に上がっていただいたことがある方いらっしゃいますか・・・少ないですね。まだまだ広島の方々に受け入れられていない「おりづるタワー」なんですけれども、是非是非、お越してください。

この「おりづるタワー」は、旧東京海上日動さんのビルを購入して作りました。原爆ドームの真隣、B29爆撃機が相生橋を目がけて原爆を投下し、爆心地で爆発をしたということで、この相生橋と爆心地と原爆ドームが3つ見える場所に位置しています。私は「もうここしかない」という思いでこのビルを購入しました。

原爆ドームのすぐ側に、広島マツダの創業の地があります。今で言うエディオンさんの新館やメルパルクホールの道路上に、広島マツダの第1号店が位置していました。創業者は私の祖父になります。当時の写真ですが、昭和20年8月6日に原爆が投下され、私の祖父をはじめ全社員が犠牲になったということです。しかし、70年経って現在のように復興したのは皆さまもご承知のとおりです。私たち広島マツダは、原爆投下により創業社長以下全員が死亡して社屋もなくなりました。広島が復興とともに、私たち広島マツダも成長してきたということなので、広島の皆様に支えていただいたから今の姿があるわけですから、広島の皆様に恩返しをしなければならないと考えています。

私は最初社長になった時には、自動車は移動手段として便利な道具ではありますが、逆に走る凶器でもあります。そんな思いもあり、当初は森に木を植える活動などを行ってきましたが、ふと歴史を振り返ったときに、やっぱり広島に恩返しをするべきだろうと考えました。大規模な環境事業は大きな会社に任せて、私たち中小企業はできることを少しずつやっていけばいいのではないかと、ということで着手したのが「おりづるタワー」ということです。広島マツダは広島の皆様に恩返しをしなければならない、広島をもっともっと面白い街にしなければならないというのが、私たち広島マツダに流れるDNAです。そこで出会ったのが「おりづるタワー」なのです。

ただ、原爆ドームにしても原爆資料館にしても、昭和20年8月6日に遡った姿しか表していません。厳しい言い方をすると。反戦、反核、原爆の悲惨な状況だけを説明しているというふうに思いませんか。私は、このビルの屋上から広島を眺めた時に、原爆ドームを見るだけではなく、原爆ドームの向こうの町並みの姿に感動しました。つまり、何もない廃墟から1人帰ってきて家ができて、またもっとたくさん人が帰ってきて街ができて、もっともっと人が集まって今の広島ができたという、その原爆ドームの向こうにある今の広島を眺めると非常に感動して、その山や海の向こうにはそれぞれの皆様のふるさとが繋がっているというような、そういうイメージを描き、この場所にもっともっとたくさんの方が来れるような、未来や希望を感じるよう

な、人間の生き様や強さを感じるような場所を披露したいと思いました。そしてこの「おりづるタワー」がスタートしました。つまり、この「おりづるタワー」のコンセプトは、「人の強さと優しい未来」。過去に遡るのではなくて、未来を感じるような施設を作ろうというところから、このプロジェクトはスタートしました。

こちらの写真は改装前のビルですね、築36年経過した、高さ51.5メートルのビルで、東京海上から14億円で購入しました。私としては安い買い物であったと思います。それを60~70億円かけて改装しました、ものすごくかかりましたけど。ちなみに新築すると、高さ制限や容積率の関係で、高さ25メートルの5階建てしか建てられないのです。もう我々の選択は改装しかありませんでした。そうすると、同じ高さのものが維持できるのです。

原爆ドームの歴史を少しおさらいしておきましょう。1915年、広島県物産陳列館として竣工されました。それが産業奨励館に改修、改称されて、1945年に原爆が投下されたのは周知の通りです。1954年には平和記念公園が完成されました。まだ昔はこの辺りに人が住んでいて、原爆ドームの中に我々も立ち入ることもできていた時代です。懐かしいと思われる方もいらっしゃるかもしれません。永久保存決議が1966年になり、世界遺産登録が1996年、3年前被爆70周年を迎えたというかたちになります。

おりづるタワーに話を戻しますが、せっかく展望台を作るんだったら、世界レベルで誇れる建物を作ろうと思いました。よくある「がっかり名所」にだけはしたくありませんでした。このビルを購入した当初は、7、8億円ぐらいかけて屋上に直行のエレベーターだけを作って、みんなに300円ぐらいで見せればいいなと思っていました。どんどんコンセプトや夢を積み上げていくと、それでは飽き足りず、全部乗せてしまおう、そこから削っていこうということになりました。原爆ドームの歴史、広島の歴史、広島マツダの歴史や創始の精神を考えていくと、やっぱり世界中から多くの方々が広島に集まるなかで、単純に展望できるだけのものは作りたくないなと思い始めて、無理をして作りました。ちょうどマツダの第6世代の車も良くなり、本業の経営もうまく回ってきたので、いけると判断してスタートしました。

設計士は、三分一博志君です。宮島の展望台も作った方で、私は同級生で仲がいいので彼にデザインを依頼しました。最初は「森のようなビルを作ってくれ。森のように緑あふれるビルにしたいから、そういうかたちにデザインをしてくれ」というふうをお願いをしました。で、できたデザイン画がこちらです。どうですか。気味が悪いですよ。こちらは対岸から見た図です。釈迦に説法かもしれませんが、やっぱりビルというのは緑が多ければ多いほどいいというものじゃないですよ。やっぱり人が使う物なので、少しは人の動きや光が出ないといけませんし、これでは幽霊ビルみたいになってしまいます。原爆ドームに来られた方は、「原爆ドームじゃなくて、なんだろうこの隣のビルは」ということで、景観を逆に壊してしまう恐れがあります。やはりある程度の調和とバランスが必要だということで、行きついたのが今のデザインになります。

この写真は昔のビルなのですが、原爆ドームの輪郭がくっきりするでしょう。後ろのリーガロイヤルホテルと同じように白系の落ち着いた色になって、ライトでアイボ

リー系の今の原爆ドームの色は、後ろの景色とやっぱり同化してしまうのです。だから我々はブラウン系で落ち着いた色ということで、同じ落ち着いた色でも違う色系にして、何度も実験を繰り返して原爆ドームを引き立たせるようにしました。

そして通常は、ビルというのは横面積を広くするためにギリギリまで壁や窓を作りますが、我々は4メートルのセットバックをして、そこに風が通るバルコニーを作りました。このバルコニーを作ったことで直接光が外に原爆ドームに出ませんし、人の動きもあまり外に映らない、柔らかく間接的に光が出ていくよう気づかいをしました。そこに緑化フォローをして、公園と一体化を図りました。

更に、広島は日中、南西の風がずっと吹いているそうです。そして、夜は逆の風向きになるそうなんです。つまり、南のほうから川が風の通り道で遡上していくということです。「おりづるタワー」の西側は川が2つあって、しかもその風を遮る高い建物がないので、非常に風が通る場所にあります。それを利用して、窓からバルコニーに出られる、窓を開けるといことは風が入ってきますので、風を全面的に取り入れるような、そういうオフィスにしました。

屋根は、外に向かって広がっています。三分一さんが言うには、風が入る所は広く、出る所を縮めることで風の速度が増すそうで、屋上へ行けば行くほどもっと風が速くなるということで、風の通りが更にいいビルになったとおっしゃっています。風が非常に強くて、夏は体感温度が3、4度ぐらい低くて、冬は逆にものすごく寒くなります。来られた方も屋上から5秒10秒ですぐ帰られるので、もう少し対策を考えなければなりません。ちなみに、このライトもスピーカーも全て木の下から出ています。この上は消音設備しかありません。直接音や光が原爆ドームや平和公園に洩れないように気を遣って作っています。今度来られた時には、是非ご確認してみてください。

「おりづるタワー」のCO2排出削減効果については、イニシャルコストでいうと半分以下、ランニングコストでいうと3分の1ほど削減しています。今のこの時期は、窓を開けて仕事をしています。風が通るようなオフィス空間になっており、エアコンを付けることはあまりありません。地上14階、地下2階、高さは改装前と同じ51.5メートルです。躯体部分だけを残して、周りを補強してビル全体を上天井から中を覆って、それで耐震を確保しています。直射日光が当たらないので、暖まりにくく冷めにくいようなビルの構造になっており、これもランニングコストを少し下げる1つの要因になっているということです。

1階が物産館、お土産屋とそしてカフェ、2階が貸会議室、3階から11階がレンタルオフィスです。12階と13階が展望台ということで、一言でいうと複合商業ビルということです。オフィス、ビジネスの方も観光の方も、地元の方も来られるようなビルになりました。屋上は展望台「ひろしまの丘」です。そしてその下は「おりづる広場」ということで、いろいろと魅せる演出をしています。

先ほどビデオにあったように、この「おりづるの壁」、この赤く囲った向こう側が、直行のエレベーターがあります。エレベーターとその外の立地境界線の間には50センチくらいのおそびの空間があって、当初の設計では壁だったのです。ところで、最近の旅行は滞在型旅行が流行っています。それで私もプロジェクトチームの若い子たち

に、「何かいいアイデアがないか」と問いかけたところ、出てきたのが「エレベーターと外の間には50センチの隙間がある、ここをガラスの大きな金魚鉢みたいなものにして、折った折り鶴を落として積み上げていく平和の壁を作ったらどうですか」というアイデアです。私はそれを素晴らしいと思い、即採用しました。もう建物が解体に入ってからのアイデアでしたから、このためにまた工期が9か月伸びました。本当は被爆70周年の時にできる予定だったんですけど、9か月延期しても惜しくない素晴らしいアイデアだと思って採用したという次第です。

「おりづるの壁」は設計も全部でき上がった後に作ったので、導線が全く考えられていませんでした。来られたことがある方は分かると思うんですけど、入って落として向こう側から出て行くという導線ではなく、狭い所に入って落として、同じところからまた出て行っていただいています。これは、全ての設計が決まってから入れたアイデアだったからです。それだけに非常にコストがかかったため、開館当初は、「おりづるの壁」に折り鶴を落とすのに500円いただいていたのですが、高価だということで多くのクレームをいただきました。また後ほど説明します。

この「おりづるタワー」で特筆すべきは、準備期間が非常に長かったということです。構想を入れると7年かかりました。ビルを購入してからでも丸6年かかりました。この要因には、広島市とのやりとりに非常に時間がかかったということがあります。何につけても初めてのことであったので、許可が下りなかったのです。この中に広島市の方もいらっしゃるかもしれませんが、本当に色々ありました。県知事や市長は総論賛成なのですが、担当の方と具体的な話をすると前例がないのでほとんど却下されて、非常に困りました。例えば駐車場や駐輪場の附置義務について、旧広島市民球場の移転に伴い紙屋町自体に地盤沈下が激しいので、うちは駐車場なしにして近隣一帯での附置義務にできないかと、隣の駐車場のオーナーと一緒にお願いをしましたが、大体持ち帰りで3か月くらい待たされてやっぱりダメ、といったケースが多く、これらが積み上がって非常に時間がかかりました。

あと当初は、こういった仕事は行政がやるもんだと思っていました。屋上は第三セクターみたいな感じで会社を作り、オフィスのテナントについては、当時も広島商工会議所ビルの移転問題がありましたので、商議所の深山会頭に「広島商工会議所ビルをここに移して、建物の名称も広島商工会議所ビルでいいです」とお願いをしました。1階の物産館を企画したのも、当時は銀座にある「TAU」という広島県のブランドショップがまだ叩かれていた時期のことです。「銀座の一等地で何千万も家賃を払って、赤字を垂れ流しながらブランドショップを運営するのはどうか」と湯崎知事が言われていた頃でしたので、「もう銀座の「TAU」を閉めて、今度はこっちに「TAU」を作ったらどうですか。広島の発信を東京でする役目はもう終わり、今度は広島で地元のブランド品を広島県が主体になって広島に来た方に発信してはどうですか」という話もありました。カフェについては、スターバックス等でやればいだろうと思っていました。私どもは元々自動車販売と不動産管理をやっていたので、それらのコーディネートだけをして家賃収入だけいただくこう思っていたんですね。ところが、先ほど申し上げたような話がなかなか進まないため、悩んだ挙句、補助金を当てにせず全て自分

のお金でやろうと、2013～2014年ぐらいに腹を括りました。そこで、銀行にお願いをして、70億円の借入金が許されたので進めましたが、とにかく時間がかかったということです。

「おりづるタワー」は2016年6月30日の竣工を受けて、それからわずか10日間でオープンしました。この10日間で引っ越し等を全て完了しました。7月11日にプレオープン、9月にグランドオープンというスケジュールでした。これにはちょっと意味がありまして、どうしても8月6日にオープンさせたかったのです。建物の完全な完成は9月だったんですけど、観光客が最も多く来広するのは夏休みです。ですので、資金繰りを考えると待てませんでしたから、とにかくプレでも中途半端な状態でもいいからとにかくオープンするように指示し、無理矢理オープンしました。

もうひとつ時間がかかった理由は、建物だけではなく、どうせやるんだったら中のコンテンツも全て自分たちの財産にしよう、外部の力を借りずに全て自分たちが決めていこうと考えました。例えば物産店の商品陳列、採用や説明会、ホスピタリティの研修等々、何から何まで全て自分たちでやりました、全部手作りです。そうしてでき上がったのがこの「おりづるタワー」であり、こうした理由で6年かかったということですね。

そしていざオープンしたところ、とにかく入場料の1700円が高いと叩かれました。昨日も官公庁の方との会合が東京でありまして、その場で入場料が高価だとお叱りを受けました。これは2つの理由があります。1つは、税金を1円も投入していないことです。東京タワーよりも高いですし、あべのハルカスよりも高いですが、「おりづるタワー」はすべて私どもの資金で建てました。「おりづるタワー」の総工費は90数億円かかりましたが、まだ借入は弊社に70数億円残っています。ですので、今後も皆様の入場料で借入金を返済しなければならないということです。そして2つ目に、当初は入場料を800円で計画していたのですが、工事中に屋上に上がってみると、屋上思った以上に狭く感じました。それは敷地350坪の小さな土地だから仕方ないのですが、それでも上がってみると手狭で、大勢の方が来られると少々雰囲気損なわれるのではないかと思いました。私たちはこの場所に木材をふんだんに使用して荘厳な雰囲気で作ったつもりなのですが、高さでは東京タワーやスカイツリーには絶対に勝てません。ですが、高いイコール偉いのでしょうか。高ければ一番偉い、大きければ一番良いのだったら、日本はもはや中国や東南アジアには勝てません。広島も、東京や大阪には勝てません。これからの日本は、そして広島は、例え高くはなくても、機能ではなくて情緒で勝負していくべきだと思います。情緒の価値だけを、「おりづるタワー」に上がるストーリーを一生懸命作りました。だから51.5メートルしかないけれども、ストーリーや情緒に関して言うと、東京タワーやスカイツリーには負けてないと自負しています。そういう思いを込めて、入場料をこの価格設定しました。

昨日も東京で官公庁の方に「800円にして倍の人数が来たほうがいいんじゃないか」とか「その考えさえも違うんだ」と言われました。ですが、例え高価であっても、分かっただけの方にはその情緒を感じてもらいたいのです。私はこれで世界と戦っていきたいということを、皆様にご理解いただければ嬉しいです。もう少し「おりづる

タワー」の経営が回っていけば、入場料を少しずつ下げていこうかなという気持ちも勿論あります。

グランドオープンが入場無料にしたところ、最大4時間待ちになりました。思い切って無料にしたのに、並んでいる方に怒られるとは思いませんでした。「なんで並ぶの」「早く入らせてよ」「1700円払ったら横から入れますよ」「じゃあ明日来るわ」といったやり取りがありました。

もう少し言い訳をさせていただきますと、東京タワーやハルカスやスカイツリーと全然違うのが、実は学生料金が非常に安いということです。900円以下で入れます。あと、原爆手帳をお持ちの方は無料にしていますし、75歳以上の高齢者も無料にしています。つまり、戦後の広島復興に携わってきた皆様と、そして未来を担う子供たちには、私たちは明確に安くしています。

オープンから1年間ほどは、60歳以上と幼稚園以下を無料にしていました。すると、60歳くらいの元気な方々の毎日の散歩コースになり、また幼稚園のお散歩コースになって、幼稚園の先生方が幼児を連れて毎日来館されるようになりました。これはさすがに運営上厳しいので、やむなく中止させていただきました。ですが、今でもそういう思いで運営しています。私の講演を聞いていただいた方には、こうした思いをご理解いただきたい。私はやみくもに1700円という入場料で暴利を貪っているわけではないということです。

開館当初、マスコミ等で発表した時には、有料入場者数の損益分岐点を約24万人に設定しました。しかし、1年目の有料入場者数は11.8万人で、その半分以下でした。開館から1年経って、もう一度事業の内容を発表したんですけれども、その時に発表したのがこちら、6億の赤字です。「6億の赤字だからもっと皆様来てください」ということが言いたかったんですけど、これはさまざまなイニシャルコストを入れ込んだ数字なんですけど、最も前面に出したかったのは、500円いただいて投入する「おりづるの壁」の売上金額を全額寄付したことです。9,620,800円貯まったのですが、これは折り紙代等の経費を引いた利益ではなくて、いただいたお金、売上金の全てです。既に全部寄付しました。

色々な苦言をいただく中で、それでも胸を張ってやりたいから、寄附の際に記者会見をして「6億円もの赤字を出しながらも、一中小企業が頑張っています。皆様ぜひ来てください」ということをアピールしたかったのですが、新聞記事には「おりづるタワー」は目標の3分の1しか入らず、6億円の赤字ばかりが前面に出されてしまいました。私の知合いからも「大丈夫か、松田くん」と非常に心配されました。そして1,000万寄付した私の心意気は、一つも報道されませんでした。ですのできっと皆様もご存じないですね。

ホスピタリティ、おもてなしについての話をさせていただきますが、それでも、来ていただいた方のアンケートでは95%以上の方が「おりづるタワー」に満足をしていただいています。だから我々が1年間やってきたことは、間違っていないという自信がありました。唯一無二の存在ですから、今までも、そしてこれからも、ここだけしか無いような価値を追及していくつもりです。

さて、旅行口コミ Web サイト「トリップアドバイザー」では、「おりづるタワー」は評価 4 以上 76% を獲得し、来訪外国人も増えました。「トリップアドバイザー」には様々なランクがありますが、この中でも「エクセレンス認証」をいただきました。つまり非常に良い所だというふうに評価をしていただいたわけです。少しずつでも「おりづるタワー」の世界的な評価が変わってきているということです。Google の口コミも最初は低かったんですけども、現在はスコア 3.9 まで上がってきています。

私はそうしたハードやソフトを中心に、広島に新たな市場をもたらしたという自負はあります。そしてグランドオープンからキャンドルイベント、正月イベントなど、様々なイベントを打ってきました。春は屋上展望台を芝生にして天井を花で埋めつくしました。これは実は人工芝と造花です。こちらは原爆ドームを設計したチェコの建築家ヤン・レツル氏の直筆の設計図がこの度見つかりまして、それを私どもで譲り受けて、今、「おりづるタワー」に展示しています。

あとは、この夏から屋上にバーをオープンしました。ちょうど豪雨災害があった後だったので、全く宣伝が出来ず口コミだけでしたが、週末だけの営業にもかかわらず大反響で非常にかっこいいバーになっています。11 月までの営業でしたので今はもう閉めていますが、来年の 5 月からまた夏の期間だけ週末オープンしますので、是非いらしてください。世界で 1 番かっこいいバーだとパリやニューヨークの方々にお褒めいただいたので、お客様を連れて来られる際などにご用命いただけたらと思います。

冬の時期は、屋上展望台にドームテントを置いて、寒さを凌ぎ心が温まるようなコンセプトで運営しています。こちらもお陰様で大好評です。その周りに生えている木は、本物の樹木を植えています。このように様々なイベント、様々な企画を取り揃えてやっていますので、季節によって違う「おりづるタワー」にぜひ皆様もお越しいただければと思います。

さて、2016 年の 7 月に「おりづるタワー」をオープンして、丸 2 年半が経過しました。こちらは売上のグラフを 2016 年の 7 月から月毎に出したものです。少しずつグラフが上に上がっていくのが分かるでしょうか。お陰様をもちまして何とか、少しずつではありますが上がってきています。青色がテナント収益です。テナントは当初 1 円も値引きしなかったこともあり 1 割程度しか入らず、オフィスとしてもダメだと言われたこともありました。現在ではテナントもようやくお陰様で満室になりました。こちらが収益の礎になりました。こちらが直近の損益計算書とキャッシュフローです。償却を除いて 6,700 万、償却を入れると 2 億 5,000 万くらいの赤字であります。2 年目で償却を差し引いて何とか現金が 6,700 万くらい残るようになってきたので、お陰様で順調であり、ご心配かけるようなことはおそらく無いのではないかと考えています。

今後もどんどん売上を伸ばしていく予定で、全体の売上高は 4 億ぐらいを目指します。ここまでくれば、少し余裕ができるのではないかと考えています。広島にしかない世界に 1 つだけの「おりづるタワー」を一中小企業が担っているという心意気でやっていますので、どうか有志の皆様にも応援していただければと思います。

さて、話は変わりますが、現在、「働き方改革」というキーワードが盛んに叫ばれ

ています。私たちも「おりづるタワー」を実験場として、新しい働き方改革を始めました。私はこれを「LDK オフィス」と名付けました。オフィスの中に楽しいこと、くつろぎ、遊びの要素を取り入れたオフィスです。このオフィスの在り方を説明させていただきます。まずはNHKのニュース映像をご覧くださいと思います。

V T R

ワークライフバランスとよく言われますが、ワークとライフが渾然一体となった空間を目指しています。「LDK オフィス」のLDKとは、ご承知の通りマンションの間取りで言うリビング・ダイニング・キッチンです。そのLDKをオフィスで再現しようというコンセプトです。こちらではアルバイトを入れて100人ほどが働いています。アルバイトはシフト制で、大きく3交替で分けてやっているんですけども、その中に1時間だけ働くアルバイトもいます。だから、ひとりに一つずつ、計100個の机を渡せるわけがありませんし、机を渡しても常時居るわけではありませんから、自分の机をなくすフリーアドレスは必然だったといえます。更に、3交替制で、11時にお昼ご飯食べる人もいるし、17時にお昼ご飯食べる人もいます。場所も限られていますし、その休憩場所もどうせなら一緒にしてしまおうと考えて、出した答えが「LDK オフィス」です。キッチンでお母さんがご飯を作っている。リビングでお父さんがビールを飲みながらナイター中継を見ている。息子はその横でご飯を食べている。娘は机で勉強している。家族それぞれが違うことをして違う音を出しているけれど、一番落ち着く場所がLDKでしょう。違う音を出しても調和しているじゃないですか。特にうるさいと思いませんよね。仕事に一番集中できる場所がどこかと考えた時に、私自身は家のリビングだと思いました。仕事は決して静かな場所で集中してやるものではなくて、周囲で多少の喧噪があつて、目の届くところに知っている人がいる方が、実は集中が出来るのではないかと考えています。

ですから「LDK オフィス」はオープンであること、そしてBGMがキーワードになっています。つまりフルオープンです。私も館長も、誰も机がないのです。経理事務には書類が必要なので専用の机が必要といわれましたが、それも許していません。もう、小さいロッカーしか渡していません。書類が必要ならば逆に紙を少なくしようという考えです。そしてずっとテレビが流れてます。3つテレビがあるんですけど。テレビはつけっぱなしです。更にはずっと音楽がかかっています、しかも、カフェのような気持ちのいい、心地良い音楽ではありません。クラブミュージックのような「ズッダッ、ズッダッ」といった音楽をかけています。静かなところでパソコンとか打つと、隣の私語とかも気になりますよね。それがもう一切なくなりますから、音楽がかかっていることによって逆に自分に集中できるのです。隣が何をしようと特に気にならず、自分のことに没頭できます。横で休憩して弁当食べてる人もいるし、昼寝してる人もいます。でもそれも気にならなくなります。これは非常に良い環境ですので、皆様にも見ていただきたいと思います。

こちらが「LDK オフィス」で先ほど私が申し上げたように、仕事と休みがぐちゃぐちゃになっている空間です。ワークライフバランスという言葉が出てきましたが、私

はワークライフバランスっていう言葉があまり好きではありません。ワーク（仕事）を減らしてライフ（休み）を増やしていきましょう。嫌な仕事は嫌な仕事として短くして、効率や生産性を追求していきましょうというのが、結局今の「働き方改革」のように思えます。しかし、会社は売上や利益は追求しなければならないので、人間は更に機械のように働かなければならないっていうことにも思えます。でも、そうではないと思うのです。結局のところ仕事の時も休みのこと考えてるし、休んでる時も仕事のことはやはり考えますよね。だから、仕事を減らすとか、仕事を嫌なものとして切り離すのではなくて、仕事の中に人生を見いだしていこうと考えました。

私は仕事の中に人生を作っていこうと考えて、“Life in the work”というコンセプトを打ち立てています。お昼の12時から1時間休憩があるからといって、携帯電話を取らなかつたり、お客様が来てもそのまま寝ていたりというのは許しませんし、休みの日でも仕事の話ができるような、そんな会社にしたいと思っています。仕事とプライベートの境界線を取り払いたいと考えています。ですから、私の会社は全てを自由にしました。本日はネクタイしてきましたが、私どものオフィスでは服装も完全に自由で、短パン、Tシャツ、スウェットもオッケーです。髪を染めても良いし、ダメージジーンズを履いてても良いことにしました。

それぐらいフリーにしないと、改革の効果が期待できないと思っています。社会人のあるべき姿は、いい大人ですから個々人で考えてもらうということです。例えば、携帯電話の私的利用はオッケーです。パソコンも個人的に使っても良いし、仕事以外のサイトを見ても全く構いません。ETCも少々私的に使っても注意しません。あまりギスギスした会社にしたくないので、その辺りの境界線も緩くしました。こうすることで、“Life in the work”のコンセプト実現を期待しています。

さて、改めてになりますが、私もう広島マツダの社長ではありません。3年前に会長になりました。私は現在49歳ですが、46歳まで10期10年間ほど社長を務めました。ここから少し私の自己紹介に入っていきます。社長交代には理由がありました。46歳で社長交代したので、当時は周囲から色々と言われました。病気なのかとか、メーカーのマツダに乗っ取られたんじゃないかとか、政治家になるんじゃないかとか、色々言われましたが、全て違います。先ほどご説明したように、会社の経営が安定してきたということ。そして世代を変えていきたいという思いがあり、それならば早い方がいいだろうということ。そして「おりづるタワー」が忙しすぎたということもあります。新規事業が目白押しだったので、色んなことをやりたいタイプでしたから、そちらに集中したいということもありました。

今思えば、この世代交代は非常に良かったですね。弊社は同族企業でオーナー企業なのですが、今後、広島マツダは誰でも社長に就くチャンスがあるということを宣言してきましたので、社員のモチベーションが大きく変わっていきました。実際に売上も上がって会社も大きくなり、幅も広がっていったということです。そして、これは個人的な気の持ち方ですが私は人生のピーク45歳説というのが30代の頃から頭にありました。だから以前から45歳で社長辞めようと思っていました。45歳くらいまでは、若い勢いや好奇心で猪突猛進していけるでしょう。でも45歳くらいからは少

しずつ落ち着いてきて、自分の経験で行動するようになるのではないのでしょうか。年配の方は分別や智慧、賢さが出てくると思います。良く言えばそうなのですが、少し言葉を選ばず言えば、若いときは無鉄砲で非常にリスクがありますが、45歳を越えると保守的で頑固で臆病になる、新しいことにチャレンジしなくなるとも言えます。経営者として新しいことにチャレンジしなくなるのは良いことではなく、自分でも頭が固くなっていくのが分かってから、少し早めに若い人にバトンタッチする方が良いんだろうと漠然と思っていました。45歳を超えたら何でも自分でやるのではなく、社員に任せていこうということで、諸事情により1年ちょっとずれましたが、46歳で社長を交代したということでもあります。

私は、広島青年会議所(JC)等を経て本業以外で様々な人との出会いがあり、それが新たな事業「おりづるタワー」やレース、そして異業種参入へのきっかけや後押しになりました。現在では広島マツダグループで17社と、事業も拡がっていています。先ほども申し上げたとおり広島マツダはオーナー企業であって、同族会社ではありませんが、グループ会社の社長には親戚家族は誰ひとりとして入れていません。多くのオーナー企業では、親族を社長に据えて、役員や経理にも親族を入れますよね。広島マツダグループの会社の社長は全て、広島マツダの社員、若しくはM&A以前の経営者の方にそのまま社長をやっていただいています。これも私のメッセージです。私はもう別の会社から給料を取ることはありませんし、それぞれの会社を成長させて、上手くいけば配当で返してもらえれば良いというスタンスです。これは、他の会社と大きく違うところだと思います。

これ今から私がやろうとしてることは、広島マツダ流のダブルワークシステムです。例えば、広島マツダの宇品店の営業スタッフがいます。そして、もう一つの立場はグループ会社の取締役です。取締役の方は、いわば雇用主なわけですね。従業員でありながら一方で雇用主という2つの仕事があるということです。ただし、雇用主の方は雇用主だから給料はゼロです。給料は、従業員の立場である宇品店の営業スタッフとして稼いでいただきます。自分の空いた時間や休みの時間を、労基とは無関係なところで、やる気のある方はステージを与えるのでどんどんやっていただきたい。給料はゼロですが、取締役を務めている会社が利益を上げていけば、役員報酬や賞与は出しますというようなやり方で進めています。現在、このダブルワークシステムの枠組みの中で、宇品店では20代~30代の役員が10人弱ほど出てきています。このシステムは、これからもどんどん広げていくつもりでいます。

更に私は、役員2年交代制というのを打ち立てています。どんなに業績が良くても悪くても、必ず2年で交代です。そして、マトリックスのようにどんどん交代していこうと考えています。私は、グループに20社まで作ろうと思っていますが、20社で社長含め1社につき5人ほど取締役がいたとしたら、20社ならば100人以上の取締役が広島マツダグループに在籍しているということになります。広島マツダの社員は600人弱ですから、ほぼすべての社員が20代で取締役にになれるということになります。失敗を恐れず、社員一人ひとりの才覚と個性を発揮して頑張ってくださいつつ、必ず2年で交代していく。そのルールさえしっかり根付いていけば、仮に私が急死して誰

か独裁者みたいなのが出てきたとしても、2年で代わっていくということになります。常にフレッシュな組織を保っていくことだけは必ず守ってほしいと弊社社員に伝えています。

先ほど、「PiQy」というアプリのお話をしました。あのプロジェクトは私の思い入れで進めましたが、結果的には成功していません。ですが、例えばサラリーマンで入って自分で独立して会社を開こうと思った時に、もちろん銀行は相手にしてくれないでしょうから、その事業の元手になる資金は親兄弟に借りる等して、なけなしの資金を集めて出資して会社設立しますよね。しかしながら、多くの場合はなかなか成功しません。広島マツダはそうじゃない。アイデアがあれば会社が出資するので、グループ内でやっていただきます。その代わりに、その事業に対する給料はありませんが、事業が成功したら役員報酬や賞与を出します。失敗したとしても特にペナルティはありませんし、借金についても責任は問わないというシステムです。だから今後も安心して新しい事業や新しい挑戦をしていこうじゃないかというのが、広島マツダの101期のスタートです。私もそうであったように、誰でもミスをします。それを広島マツダ全体で補っていきたい。そしてヒロマツチームというものを作っていこうと考えています。10個の事業のうち2個か3個くらい成功すれば良いじゃないかというような気軽な気持ちでやっていきます。とにかくワクワクする仕事を創り出したいですね。

私が今考えている事業というものは、マーケティングとか採算ベースで上手くいくかなんていうことで選んでいません。最近では、この社長と一緒に仕事が面白くなりそうだとか、仕事自体がワクワクするものしか、M&Aもしませんし新規事業も立ち上げません。釈迦に説法かも知れませんが、私はビジネスの本質というのは、人に与えることだと思います。例えばお腹が空いた人に温かいお料理を出してあげるとか、冬の寒い日にコートをかけてあげるとか、寂しそうにしている人に話しかけるとか、そういったことが結局ビジネスに繋がっていくのではないかと考えています。人の繋がりで商売が成り立っていくんだと感じており、こうした感覚を大切にしていきたいと思っています。

今、私が強く思うのは、会社とは利益を生み出す組織ではなくて、もう少し違うところを目指したいということです。会社は「働き方改革」で言われているような、生産性や効率、あるいは損得勘定やお金ではないと思います。多少効率が悪くても一緒にお茶を飲んだりお酒を飲み交わしたりを楽しむのが人間本来の姿であるし、人の役に立って喜ばれたら自分も嬉しいといったことこそ、やっぱり私たちの本当の姿ではないでしょうか。私ももうすぐ50歳になりますから、これからは数字や効率だけを追求せずに、楽しくワクワクしつつもゆったりと穏やかに仕事をしていくような方向に持って行きたいと思っています。少なくとも私が毎日仕事をする広島マツダは、そういう人間を集めたいと思っていますので、あまり数字のことは言わないようにしました。もちろん社長は数字のことを言っていますが、私は会長の立場だからこそそう言えるのかも知れませんが、お互い役割分担ができています。

これから広島マツダは、そしてうちの社員は何を目指していくのかということですが、やはり魅力ある会社、魅力ある人になろうということだと思っています。「魅力

って何？」と聞かれたときに、私は「人に好かれる人間になろう」という結論を出しました。自分の魅力を上げるために、今から英語をペラペラになったり、何か資格を取ったりするのは難しいですよ。私は東大出身でもありませんし、MBAも持っていませんし、甲子園も出ていません。だけど、人に好かれるというのは、多分どんな人にでもできるように思います。目の前の人に対しても、コンビニで買い物をした時のレジの方に対しても、レストランのウェイトレスに対しても優しく出来ると思います。どこに行っても好かれるようになる努力はできると思います。これを広島マツダの社員全員ができれば、もっともっとうちの会社は繁栄できるんじゃないかと考えています。

好きになって貰うためにはじゃあどうすれば良いかってなると、その相手を喜ばせるために一生懸命頑張るといふことと、相手に喜んでもらうために陰で努力をしていくということに尽きると思います。それを言葉にしたのが、広島マツダの企業理念である「Happyhappy」と「Spechigher」です。「Happyhappy」とは、ハッピーを与えることでハッピーが返ってくる、あなたの幸せが私の幸せになるということです。もうひとつの「Spechigher」は造語です。自動車のカatalogの諸元表に示されている馬力等のスペックを目に見えない努力でより高くしていこう、誠実に努力を重ね、日々成長していこうということ。すなわち、目に見えるところで頑張る努力していこうということ、目に見えないところで頑張る努力していこうということ。広島マツダの企業理念はこれだけです。他の理念や、ミッションやビジョンというのは一切無くしました。だから、アルバイト含め弊社の業務に携わる方がすぐに覚えてもらえるようなものになっています。ある大手企業は「人を大切にします、豊かな価値を創造します、社会に貢献します」という理念からピラミッド構造になって、行動基準、何とか規範等、盛りだくさん書かれています。しかし、この会社の方に聞いたら、誰も理念や行動基準を言えないのです。やっぱり偉い人が考えたものであり、社員全員の心に落ちてないのです。他の大手企業も同様、たくさん良いことが書かれています、なかなか社員に落とし込めていないようです。ただのお題目になってはもったいないと考えると、私は「Happyhappy」と「Spechigher」の2つだけで良いだろうと判断しました。そこから先は、いい大人ですから社員各自で理解し判断し行動してもらうような理念にしました。

大手企業では、厳密なマニュアルや規則がありますので、ともすればこれは規則だからできませんとか、これはコンプライアンスに違反するからダメですとストップをかけられることがよくあると思います。広島マツダは中小企業だから、大手企業とは違います。理念である「Happyhappy」と「Spechigher」さえ満たしていれば、あとは社員の判断に任せます。価値観でさえ、社員個々人の価値観で行動して欲しい。お客様のクレーム等も対等に聞くようにしています。お客様は神様ではなく、あなたのやり方でお客様に接してください。それで怒られたなら怒られたで、あなたの自由だという形です。枝葉末節は社員個々人の判断でやってもらうのがうちのやり方です。こういったことを突き詰めていくうちに、うちの会社では多くの新規事業を手がけていますが、もうほとんど事業計画も作らなくなってきました。未来は予測できませんか

ら、1年間の予算ぐらいしか作らず、今日の前にあることを一生懸命やっていくようにしています。就業規則等の諸規程も最低限です。もちろん番頭がいまして細かいことも言いますし、最低限のコンプライアンスは遵守しなければならないのですが、もうとにかく最低限にしようと考えています。

私は売上については次のように考えています。利益を上げるためには、売上げを上げるか、変動費や仕入れや在庫を下げていくか、固定費や人件費や施設料を下げていくかだと思います。この3つができれば、必ず利益が上がってきますよね。ですが、お客様をハッピーにしたいという視点からいけば変動費や仕入れや在庫を下げると、まわり回って幸せになりません。人件費や固定費を下げたとしたら、給料を下げて人もはついてこないでハッピーになりません。やはり結論は、売上を上げなければならないということです。人口減少や景気は関係なく、とにかく売上を上げていかなければならない。

売上げを増やすということは、お客様が増えるということです。つまり、お客様を喜ばせることを常に考えて行動できるかどうかということに関わっています。お客様を増やすということは、味方を増やす、仲間を増やしていくということになります。だから、どこへ行っても仲間を増やしていくようなことを意識して行動してほしい。それがまわり回って、売上げに直結をしていくということだと思います。

私が人生の先輩方の前で人生を偉そうに語るのも大変恐縮なんですけれども、私にとっての人生のテーマは幸せで、楽しく、笑う時間をいかに長くしていくかということです。どこでも、誰とでも、何をしても幸せに感じるように、楽しく感じるように、笑えるようにありたいと思っています。これは会社でもそうですし、仕事においてもプライベートでもそうです。常にそういうことを意識すると、ワークライフバランスではなく、仕事と人生の境界をあいまいにして生きていきたいなあと思いながら、今後の広島マツダを創り上げていきたいと考えています。

先ほど100期と申し上げましたが半期に一度決算をしていた時期があったので、85周年なんですけど、広島マツダはちょうど100期目を迎えました。100期ということで、全社員を集めてお話しした内容を、皆様にご披露させていただきました。その際に、最後に流したVTRをご披露させていただきたいと思います。中国の社員も見ていますので、中国語の翻訳がありますがご了承ください。

V T R

如何だったでしょうか。私はVTRを作るのが大好きですから、こういうのを作って流しています。今回、これは評判が良かったのでご覧いただきました。

さて、こちらは私が最近作った「広島未来構想」という資料です。叡智学園ができるという話題もありましたが、湯崎知事が教育にも力を入れていらっしゃるのでも、広島が若い人たちが住みやすい、住みたい町になっていくのも非常に良いなと思います。

産業もコンパクトで、バランスが良い県です。それぞれのところで、代表的な事業が集まっているとも言えます。広島は四季を感じられる自然が豊かな土地柄で、晴天が多く、気候も穏やかです。いろんな意味で全国的に上位であって、国際平和で知名

度も高い。直近の2017年の移住希望ランキングでは、全国4位ということで年々上昇しているそうです。つまり、暮らしやすさと、独自の文化資源を持ち合せている環境になっているという、素晴らしい街です。

私はマツダに携わる人間として、ロードスターパークを作りたいかと常に思っておりまして、将来はマツダ車の公園を作りたいと思っています。更に言えば、サーキットを作りたいと考えています。広島空港の傍に作ろうということで、ちょっと遊びで描いてみました。ドイツのニュルブルクリンクのサーキットをそのままの縮尺でバーンと当てはめたら、空港の周囲にレース場ができるんです。面白そうじゃないですか。普段は一般に開放して、休日はここでレースをすれば面白いですよ。

暮らしやすいこと、学べるということ、そして働ける場所があるという基本がきちんと整備されれば、人はたくさん集まってくるでしょうし、他の街にも負けないポテンシャルがあると思うので、広島はまだまだ良くしていく余地があり、良くしていくべきだと思います。

現在は東京に一極集中していますが、この東京一極集中は、天変地異とか災害が起きない限りは見直されないでしょう。みんな東京に行って、地方はどんどん減少していきます。一方で外国人の労働者やインバウンドがどんどん増えていく。その中でどうやって人生を豊かにし、幸せになっていくのかということを考えていく必要があります。

今後の広島を考える時には、広島人と一緒に考えていきたい。一生暮らす場所として、学べたり、働けたり、遊べたり、広島を笑顔のあふれる場所にしたいですよ。ということは、結局、私が言いたいのは、広島マツダはとにかく広島を愛していて、広島に恩返しをしていく。これが弊社のDNAであると宣言しています。皆様もほとんど広島人でしょうから、同じように宣言して、広島力を結集して、異業種で結集していきたいですよ。この資料は商議所の深山会頭にプレゼンするイメージで作っていますので、このような表現になっています。もし今日の講演でご縁があれば、皆様も一緒に広島のために行動しませんか、ということをお伝えして終わりにしたいと思います。

最後になりますが、こちらの絵は私がオーダーして昨日できたばかりの、2045年の広島の絵です。被爆からちょうど100年後の広島ということになります。原爆が落ちて焼け野原になって、広島は街は何もなくなりました。そこからゴールを定めるとすれば、ちょうど100年後ではないでしょうか。2045年まで、もう30年を切りました。この節目を、広島も人も一つのゴールにしたいと思えば、ワクワクしませんか。あと20何年かけて道路をもっときれいにしていこうとか、ここに新しい道路を作っていこうとか、ここに建物を作っていこうとか、もっともっとゴミを減らして、生き生きとした生き方をしようとか。そういうことを誰もが思ってもらえれば、街を汚す人も少なくなるでしょう。例えばサッカースタジアムが必要、不必要といった「点」で話をするのではなくて、30年後の広島を見据えれば、何が必要で何が不必要か、今優先すべきことが何なのかが分かるような気がします。30年後という視点で考えれば、広島にマッチしたサッカースタジアムもできるでしょうし、大学だって作れ

るでしょう。

そういう長期的なビジョンを持ってやっていきたいという思いを込めて、画家に描いていただいたのがこのベビーカーの絵です。弊社はマツダですから車をベビーカーに見立てて、ナンバープレートは2045年で作っています。コウノトリと赤ちゃんが車を運転しています。「おりづるタワー」を中心に、広島がこうなったらいいのにといい想いを詰め込んでいます。100年かけて自分たちはこの町を作ってきたんだと、そしてそこからがまた新たなスタートなんだということを示せば、今からの広島はもっと面白くなると思っています。

そういうことを投げかけて、時間が参りましたので、私の講演を終わりにしたいと思います。大変な長時間をご清聴いただき、誠にありがとうございました。



RCCM資格試験（道路部門）合格体験記

復建調査設計株式会社 宮里 隆

1. はじめに

私は、2018年3月、RCCM資格試験に3回目の挑戦で合格することができました。これは、上司、先輩方や参加させて頂いた広島県測量設計業協会主催のRCCM受験対策講習会の講師の方々、一緒に参加した他の協会社員の方々のご指導とご協力によるものだと思います。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

2. 前回までの受験失敗例

まず、私の2016年度までの受験失敗例をご紹介します。

2015年度の初受験では、建設コンサルタント等業務実績証明書のコピーを取っていませんでした。ですので、問題Ⅰの「業務経験」論文にて、記載した論文が証明書の何番目の業務か思い出せず、大幅に時間をロスして焦った挙句、氏名を書き忘れて失格というさんざんな結果となりました。

2016年度の2回目の受験では、業務の多忙さを言い訳にして受験対策を行わずに試験に臨み、当然、不合格となりました。

3. 今回の受験対策

過去2年の失敗から私は、自分ひとりの力では、合格できないと考え、広島県測量設計業協会主催の「RCCM受験対策講習会」に参加しました。

講習会では、講師の方々より受験対策のポイントを教えて頂きました。また、一緒に参加した他の協会社員の方々とディスカッション等を通じて切磋琢磨することで、自身の資格取得に対するモチベーションを上げることができました。

これらを踏まえて、私が実施した2017年度の受験対策は、以下の通りです。

- ① 建設コンサルタント等業務実績証明書は、必ず写しを取る
- ② 問題Ⅰの「業務経験」論文は、上司・先輩に添削して貰い、作り込む
- ③ 問題Ⅱ、Ⅳの択一問題は、過去問題で対策する
- ④ 問題Ⅲの記述問題は、過去出題のテーマから想定問題を数題作成し、国土交通白書等を参考に解答を準備する

4. おわりに

今回合格することができたのは、周囲の方々のご協力のおかげで、モチベーションを維持し、上記の受験対策を続けることができたことが大きな要因だと思います。RCCM資格試験時期は、業務も忙しくなる時期でもあるため、時間の確保もモチベーションの維持も難しいと思いますが、短い時間でも受験対策を続けることが合格への第1歩ではないかと感じました。

ちなみに今年は、「河川、砂防及び海岸・海洋」部門を受験しました。勉強不足で自信はありませんが、また来年も受験しようと思います。

これまでの人生を振り返り一番大切なもの

ウムヴェルト株式会社

代表取締役 平賀 勝秀

この度の投稿記事のお話しをいただき、どのようなことを執筆すればよいのか、改めて思い返す今年最後の平成 30 年 12 月 31 日の大晦日。

私の趣味やスポーツなど考えてみるとなんだろう？

実家近くの呉市阿賀漁港で幼少期から始めた深瀬釣り、小学生時代は柔道、小学生時代から大学の頃まで行った部活でのサッカー、18 歳から始めたスノーボード、20 歳の頃から始めたダイビング。

これと言って 46 歳を迎えこれまでの趣味を考えてみると、負けず嫌いの自分の性格から全てにおいて一生懸命、また全力で楽しむ、今となっては、多くのことを全てから学ばせていただいたと思います。

18 歳当時から始めたスノーボードについては、地元就職後、今は閉館している屋内ゲレンデ、スノーバ広島（広島市元宇品）で年間チケットを購入し週 3 回通い、ストレートジャンプの技を納得いくまで練習していたことを思い出します。

当時、地元スキー場で開催されていたワンメイクストレートジャンプ競技の大会では、数多くエントリーを行い、スノーボードへ没頭していたことを思い返します。

しかしスノーボードについては、ケガの理由で仕事に悪影響することもあり趣味程度に行うことに決めて今では、2 人の息子たちと年 2 回、冬山に行く程度で楽しんでいます。

しかしながら趣味を通じて何が現在残っているかと考えてみると多くの友人が出来たことこそ全てであり感謝しております。

私は、広島県呉市阿賀町で生まれ、父の仕事の関係により神奈川県横浜市西区にある日揮㈱に務めていたこともあり生まれて間もなく横浜市に移り住みました。

幼少期の頃は、赤い車両の京急がとても大好きな幼稚園児だったそうです。

また父の職場の多くの友人の方々と家族ぐるみでお付き合いをさせてもらっていたそうで沢山の方々に囲まれて私も育ったことを両親からいつも聞かされておりました。

私が 6 歳の頃、実家のある呉市阿賀に戻ることになり広島での新しい生活がスタートいたしました。

全くと言っていい程、言葉の強さに翻弄される毎日でした。

横浜で育った私の言葉は、幼稚園児にも女の子みたいと言われ、仲間外れになりがちでした。

しかし当時から負けず嫌いの私の性格から、阿賀弁の練習をして3か月後には、阿賀弁丸出し小学1年生になっていました。

これまで仲間外れにしていた友人も小学1年生の頃には、毎朝家に迎えに来てくれる友人になり沢山の友達に囲まれ大自然の中で育ちました。

小学生の頃には、いつも担任の先生や近所のおじさんやおばちゃんに怒られてばかりで小学生どうしの喧嘩などは、日常茶飯事でしたが、そのあとの友情が半端ではなく大きな友人との結びつきに繋がっていきました。

あのまま横浜での生活が続いていたらと思うと今の人生は無かったと思います。

その後、中学校、高校、大学と進みました。

私の大学での専攻は、工学部産業デザイン学科でした。

幼少期から絵を描くことが好きで、石膏デッサンや画塾にも通っていたこともあり、将来は、デザイン関係に進もうと思っていました。

大学の専攻で橋や公園のデザインへ進んだのですが、母方の祖父が戦前戦時中と、呉海軍工廠に勤務し戦艦大和の電気配線設計部門、艦橋エレベーター設計部門での機密室の数十人の設計技術者であり、父については、石油プラント設計の技術者だったことから祖父、父への憧れもあったことがきっかけとなり大学を卒業して2年間、設計技術者を目指し測量専門学校へ入学いたしました。

それを足掛かりに地元コンサルの2社への就職活動を行い、1社様はご縁が無く、地元のフクヨシエンジニアリング(株)へ入社いたしました。

またフクヨシでは、多くの諸先輩方から沢山のことを学び多くのご縁をいただきました。

いまだにフクヨシの諸先輩や皆様には、お付き合いさせていただいていることに日々感謝しております。

人生は、不思議なもので、就職活動でご縁が無かった1社様の皆様には、今では、人生最大のご縁を頂きお付き合いをさせていただいておりいつも大変感謝しております。

フクヨシエンジニアリング(株)を退社後、河川多自然型工法及びビオトープを肌で体験する為、計画性も無いままドイツバイエルン州レーゲンスブルグ、フランクフルトへ1年間単身移住いたしました。

しかしドイツでの多くの失敗と挫折、悔しい思いを沢山経験した海外生活でした。

一方、短期間入校したドイツ語学校では、多くの海外の友人との出会こそが、今でも大切な財産であります。

ドイツでの挫折をきっかけに日本に帰国し自分と向き合った結果、父の会社を継ぐことを決心いたしました。

会社を継いでからのこれまでの16年間で振り返るとさまざまなことがありすぎて書ききれませんが、ウムヴェルト(株)で毎日純粋に一生懸命仕事をしてきました。

これまでの人生、無駄な経験など全くないことにこの歳になってようやく気づかされました。

今は亡き父の言葉がいつも思い返されます。

「とにかく全ては、心が一番、筋道を大切にすること。間違ったことを行った時には、素直に謝り、周りの人を大切に、笑顔あふれる皆さんと生活させてもらいなさい。」

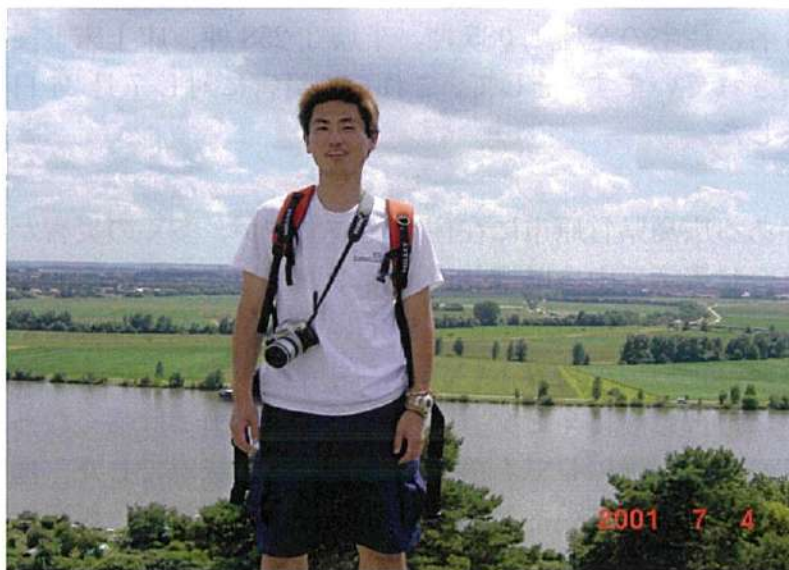
両親の親戚や叔父、叔母の皆さんからも人は心が一番大切だとアドバイスをいただけることにいつも感謝しております。

今現在の趣味は、やはり仕事すなわちウムヴェルト(株)を経営することが趣味になっています。

趣味も仕事も人そのものが大切であり、これまで知り合った全ての皆様、弊社のスタッフの皆さん、全国の仲間や知人、友人こそが財産であります。

いつも変わらない私の目標として、弊社スタッフの皆さんとこのウムヴェルト(株)で、全ての皆様のおかげさまをいただきながら世の中のお役に立てさせて頂くお仕事を素直に行っていき沢山の笑顔がいただける会社に成長していきたいと思っております。

全ての皆様のおかげさま！ありがとうございます！



『平成 30 年 7 月豪雨災害について』



株式会社セトウチ

設計部港湾課 梶山 雄 祐

私は、平成 24 年に広島工業大学環境学部地球環境科を卒業し、株式会社セトウチに入社しました。本社の設計部港湾課に所属し、主に港湾・海岸構造物の点検や調査設計に従事してきました。入社以来、梅雨や台風に伴う大雨による災害への対応はある程度は経験してきましたが、『平成 30 年 7 月豪雨災害』は今まで経験した災害とは比較にならない程規模の大きなものでした。現在も災害復旧に伴う作業は継続中ですが、本災害を現時点で振り返ってみたいと思います。

『平成 30 年 7 月豪雨災害』とは、平成 30 年 6 月 28 日～7 月 8 日にかけて西日本を中心に全国各地で発生した台風 7 号及び梅雨前線等の影響による豪雨災害の名称です。この期間の総降雨量は四国地方で 1,800mm、東海地方で 1,200mm、九州地方で 900mm、近畿地方で 600mm、中国地方で 500mm を超えるなど、7 月の月降水量平年値の 2～4 倍となる大雨となりました。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で 24, 48, 72 時間降水量の値が観測史上第 1 位になるなど、広い範囲において長時間に及ぶ記録的な大雨でした。我々が暮らす広島県においても、7 月 6 日に大雨特別警報が発表され、多くの被害を被りました。内閣府非常災害対策本部が 10 月 9 日に公表した被害状況では、広島県の人的・物的被害は死者 109 名、行方不明 5 名、負傷者は重軽傷者 138 名、住宅の全壊 1,085 棟、半壊 3,258 棟、床上床下浸水 8,837 棟など多くの被害が報告されています。そして、これらの災害に対し 7 月 24 日には激甚災害(本激)に指定されました。

私は本社がある広島県竹原市に在住していますが、多くの災害が発生した 7 月 6 日には、業務の打合せ協議で山口県柳井市に行く予定でした。数日来より強い雨は続いていましたが、当日は特に大雨で、本社を出発した正午時点では岡山県から東広島までの山陽自動車道は通行止め規制に入っており、国道 2 号線も既に上り線が渋滞していたと記憶しています。打合せを終えた夕方頃には、さらに雨脚は強くなっており高速道路を走る際にはワイパーを最強にしても前方が見えづらい状況でした。通行止め規制区間は岡山県から五日市まで延びていたこともあり、五日市からは一般道での帰社を余儀なくされました。国道 2 号線の渋滞範囲が更に拡大していましたので、広島高速 4 号線で広島市中心部に入り広島県道路経由で通常の 3 倍以上の時間を掛けて本社に戻りました。特に広島県道路走行時の降雨は凄まじく、これまで経験したことのない状況でした。本社

前を流れる2級河川賀茂川の水位も氾濫危険水位を超えて上昇しており恐怖を覚えました。このまま降雨が続くと夜明けにはどんな被害が発生するのか想像するのも躊躇われるような状況でした。そして、翌日早朝より会社に出社し、被害状況の確認や通行可能な道路の探索を行いました。竹原市内では多くの道路が通行止めで、隣の東広島市と接続する道路は全て通行止めとなっていました。被害の状況は前述したとおりであり、我社では建設コンサルタントとして今日に至るまで災害復旧に全力で取り組んでいます。

第20次査定まで及ぶ長丁場な災害査定設計を経験したことで、我々の仕事が被災地域の復旧・復興に緊密に結びついていることを再認識させられました。現地調査の際に目の当たりにした被害の大きさや、被災されている方々の様子、そして道路や水道等のライフラインの寸断が地域住民に及ぼす影響の大きさを鑑みると、己の仕事に対する責任の大きさと、日々の取り組みの中で防災・減災に対する考えを持ち続けることの大きさを強く認識する機会となりました。今後は益々精進し、技術の向上に対して研鑽を積んでいきたいと思えます。

総 会

第42回通常総会

日 時：平成30年4月27日（金） 15：30～

場 所：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 平成29年度事業報告承認について
- 2 平成29年度収支決算報告承認について
- 3 平成30年度事業計画（案）について
- 4 平成30年度収支予算（案）について
- 5 役員改選について



平成30年度 理事会

第1回理事会

日 時：平成30年4月27日（金） 17：00～

場 所：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 会長及び副会長並びに専務理事の選任について
- 2 次回理事会の開催日程について

第2回理事会

日 時：平成30年5月8日（火） 15：00～

場 所：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 委員会の構成について
- 2 相談役の委嘱について
- 3 平成30年度行事实施計画・委員会開催日程について
 - (1) 総務広報委員会
 - ① 担当事業実施方針
 - ② 関係予算
 - (2) 技術委員会
 - ① 技術講習会実施方針
 - ② 関係予算
 - (3) 経営委員会
 - ① 担当事業実施方針
 - ② 関係予算
- 4 担い手確保対策事業推進体制の整備について

5 県内市町との意見交換について

- (1) 基本方針
- (2) 会員企業からの意見
- (3) 要望書（案）

6 その他

- (1) 中国地区協議会定例会について
- (2) 全測連全国会長会議（懇親会）について
- (3) 河川の維持管理における河川維持管理者資格の活用試行について
- (4) その他

第3回理事会（臨時理事会）

日 時：平成30年8月9日（木） 15：30～

場 所：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 平成30年度総務広報委員会担当事業，事業計画・予算について
- 2 平成30年度技術委員会担当事業，事業計画・予算について
- 3 平成30年度経営委員会担当事業，事業計画・予算について
- 4 平成30年度事業実施スケジュールについて
- 5 「平成30年7月豪雨」災害の義援金について
- 6 参考資料
 - (1) 広島工業大学キャンパス説明会，アンケート結果
 - (2) 広島工業高等学校説明会，アンケート結果
 - (3) 呉工業高等専門学校説明会，アンケート結果
 - (4) 西条農業高等学校説明会，アンケート結果
 - (5) 調査・測量・設計業務技術向上講習会，アンケート結果
 - (6) CIM体験セミナー，アンケート結果
 - (7) 市町要望書，要望状況について
- 7 その他

「平成30年7月豪雨」災害対応における経緯

第4回理事会

日 時：平成30年9月4日（火） 15：00～

場 所：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 平成30年度役員及び職員表彰について
 - (1) 被表彰者名簿（案）について
 - (2) 表彰規程
- 2 経営者懇談会について
- 3 県（本庁）との意見交換について
 - (1) 意見交換会について
 - (2) 意見交換会の課題について【参考】平成29年度提案及び要望
- 4 国の4事務所との意見交換について【参考】平成29年度意見交換会協議録
- 5 賛助会員の入会について

6 その他

- (1) 平成30年度事業実施スケジュールについて
- (2) 「平成30年7月豪雨」災害対応における経緯
- (3) 「ひろしま建設フェア2018」について
- (4) 「第57回地図ならびに地理作品展」について

第5回理事会

日 時：平成31年1月11日（金） 15：00～

場 所：広島県建設業協会連合会 会議室

議 題

- 1 平成30年度総務広報委員会担当事業状況について
 - (1) 広報誌の紙面構成等について
 - (2) 広島県への寄附金の贈呈（新聞記事）
 - (3) 新潟県測量設計業協会パンフレット
- 2 平成30年度技術委員会担当事業状況について
技術講習会に関するアンケート調査について
- 3 平成30年度経営委員会担当事業状況について
 - (1) 国の4事務所長との意見交換会について
 - (2) 県との意見交換会の課題項目について
 - (3) 市町要望の状況について
- 4 その他
 - (1) 第43回通常総会の開催日程等について
 - (2) 平成30年度事業実施スケジュールについて

その他

- 1 （一社）広島県測量設計業協会青年部会について
- 2 大規模災害時における広域的な応援体制について
災害時の支援協力に係る県との協定状況等

平成30年7月豪雨災害に係る寄附金贈呈

贈呈日：平成30年11月7日（水）

場 所：広島県知事室



平成 30 年度 委員会

I 総務広報委員会

第 1 回総務広報委員会

日 時：平成 30 年 5 月 22 日（火） 15：00～

場 所：広島パシフィックホテル

議 題

- 1 委員会構成について
- 2 平成 30 年度総務広報委員会担当事業実施方針について
 - (1) 担当事業実施方針
 - (2) 事業実施計画
 - (3) 担当事業計画・予算
- 3 表彰規程
- 4 担い手確保対策事業推進体制の整備について
- 5 広島県 建設産業課 資料
 - (1) 平成 30 年度の学生向け説明会の開催について
 - (2) 平成 30 年度建設業の担い手確保・育成の推進について
 - (3) 建設フェアの開催について
- 6 広島工業大学説明会（5 月 25 日）資料
- 7 広島県教育委員会 高校教育指導課 資料
- 8 情報提供
 - (1) 島根県測量設計業協会 パンフレット
 - (2) CIM（3 次元 CAD）体験セミナー
 - (3) 第 23 回中国地区測量技術講演会
 - (4) 土砂災害防止法に基づく基礎調査及び区域指定の進捗状況について
（建設委員会資料）

担い手確保対策推進プロジェクト会議

第 1 回担い手確保対策推進 PT 会議

日 時：平成 30 年 5 月 22 日（火） 16：15～

場 所：広島パシフィックホテル

課 題

- 1 広島県建設産業課資料
 - (1) 平成 30 年度の学生向け説明会の開催について
 - (2) 平成 30 年度建設業の担い手確保・育成の推進について
 - (3) 建設フェアの開催について
- 2 広島工業大学 学生向け説明会等
菅教授（地球環境学科），竹田教授（環境土木学科）
- 3 広島県教育委員会 高校教育指導課 資料
- 4 島根県測量設計業協会 パンフレット

広報誌編集会議

第1回広報誌編集会議

日時：平成30年10月23日（火） 15：00～

場所：広島県建設業協会連合会 会議室

議題

1 広報誌の編集方針について

2 その他

第2回広報誌編集会議

日時：平成31年2月1日（金） 13：30～

場所：広島県建設業協会連合会 会議室

議題

1 広報誌の編集について

2 その他

総務委員会担当事業

1 学校説明会

(1) 広島工業大学 環境学部

開催日：平成30年5月25日（金）

13：15～

主催：（一社）広島県測量設計業協会
担い手確保対策推進PT

対象者：71名



(2) 広島県立広島工業高等学校

開催日：平成30年6月7日（木）

13：30～

共催：広島県土木建築局建設産業課
（一社）広島県測量設計業協会
広島建設青年交流会

対象者：土木科3年生40名



(3) 呉工業高等専門学校

開催日：平成30年6月11日（月）

14：00～

共催：広島県土木建築局建設産業課
（一社）広島県測量設計業協会
広島建設青年交流会

対象者：環境都市工学科4年生42名



(4) 広島県立西条農業高等学校

開催日：平成 30 年 6 月 14 日（木）

13：20～

共 催：広島県土木建築局建設産業課
（一社）広島県測量設計業協会
広島建設青年交流会

対象者：緑地土木科 1, 2 年生 79 名



(5) 広島工業大学 工学部

開催日：平成 30 年 11 月 20 日（火）

13：15～

主 催：（一社）広島県測量設計業協会
担い手確保対策推進 PT

対象者：36 名



(6) 広島工業大学専門学校

開催日：平成 30 年 11 月 28 日（水）

13：00～

共 催：広島県土木建築局建設産業課
（一社）広島県測量設計業協会
広島建設青年交流会

対象者：土木工学科 1 年生 20 名



2 ひろしま建設フェア 2018

開催日：平成 30 年 10 月 6 日（土）

主 催：広島県，（一社）広島県建設工業協会，広島県建設業協会連合会，
建設産業専門団体中国地区連合会



3 役員表彰

表彰式：平成30年12月6日（木）

表彰者：経営者懇談会前に森協会長から表彰

被表彰者：3名



4 優良職員表彰

表彰式：平成30年12月6日（木）

表彰者：経営者懇談会前に森協会長から表彰

被表彰者：5社7名



II 技術委員会

第1回 技術委員会

日時：平成30年5月31日（木） 15:30～

場所：広島パシフィックホテル

議題

- 1 委員会の構成について
- 2 平成30年度技術委員会担当事業実施方針について
 - (1) 担当事業実施方針
 - (2) 事業実施計画
 - (3) 担当事業計画・予算
- 3 講習会等運営規程
- 4 技術講習会に関するアンケート調査について

5 各種講習会における主催者の挨拶について

6 情報提供

- (1) 中建日報記事（技術士受験対策講習会，i-Construction セミナー）
- (2) CIM（3次元CAD）体験セミナー
- (3) 第23回中国地区測量技術講演会
- (4) 土砂災害防止法に基づく基礎調査及び区域指定の進捗状況について
（建設委員会資料）
- (5) その他

技術委員会担当事業

1 技術士第二次受験対策講習会（CPD 対応）

日 時：平成 30 年 4 月 11 日（水） 9：30～

場 所：広島県立総合体育館

講 師：技術士 矢木一光氏

参加者：10 社 17 名（中国 4 県測協会員含む）



2 コンクリート診断士受験対策講習会

（CPD 対応）

日 時：平成 30 年 4 月 24 日（火） 9：30～

場 所：広島県立総合体育館

講 師：広島県コンクリート診断士会

参加者：6 社 9 名（中国 4 県測協会員含む）



3 RCCM 受験対策講習会（CPD 対応）

日 時：平成 30 年 5 月 23 日（水） 9：30～

場 所：広島県立総合体育館

講 師：工学博士 山下祐一氏

参加者：9 社 13 名（中国 4 県測協会員含む）



4 第7回安全・安心な社会基盤の整備に関する講習会
(CPD 対応)

日 時：平成 30 年 6 月 5 日 (火) 9:30~

場 所：広島県立総合体育館

講 師：工学博士 山下祐一氏

参加者：9 社 1 個人計：12 名

(中国 4 県測協会員・非会員含む)



5 調査・測量・設計業務技術向上講習会 (CPD 対応)

日 時：平成 30 年 6 月 7 日 (木) 13:00~

平成 30 年 6 月 8 日 (金) 13:00~

場 所：広島県立総合体育館

参加者：12 社 41 名 (7 日)・22 社 73 名 (8 日)



6 災害復旧実務講座 (コンサルタント編) (CPD 対応)

日 時：平成 30 年 6 月 11 日 (月) 10:10~

場 所：広島県立総合体育館

参加者：22 社 50 名 (中国 4 県測協会員・非会員含む)



7 CIM (3次元CAD) 体験セミナー (JACIC主催, CPD対応)

日時:平成30年6月20日(水) 10:00~

平成30年6月21日(木) 9:30~

場所:広島県立総合体育館

参加者:9社19名(山口県測協会員含む)(20日)

9社18名(山口県測協会員含む)(21日)



8 建設コンサルタント業務技術講習会 (CPD対応)

日時:平成30年7月5日(木) 13:30~

場所:広島県立総合体育館

講師:広島県職員・工学博士 山下祐一氏

参加者:14社35名(中国4県測協会員含む)



9 RCCM 受験対策直前講習会

日時:平成30年10月31日(水) 14:00~

場所:広島県建設業協会連合会 会議室

講師:工学博士 山下祐一氏

参加者:1社2名



10 全測連中国地区協議会関係

- (1) i-Construction セミナーin 広島 (CPD 対応)
日 時：平成 30 年 4 月 17 日 (火) 13:00~
場 所：広島県民文化センター
講 師：国土交通省中国地方整備局他
参加者：約 350 名うち
【12 社 63 名 (広島県測協会員)】



- (2) i-Construction セミナーin 松江 (CPD 対応)
日 時：平成 30 年 4 月 18 日 (水) 13:00~
場 所：くにびきメッセ
講 師：国土交通省中国地方整備局他
参加者：約 180 名うち
【1 社 2 名 (広島県測協会員)】



11 第 23 回中国地区測量技術講演会 (CPD 対応)

- 日 時：平成 30 年 6 月 26 日 (火) 13:00~
場 所：広島県民文化センター
参加者：367 名うち
【22 社 115 名 (広島県測協会員)】



12 独禁法講習会(建設関連 5 団体共催) (CPD 対応)

- 日 時：平成 30 年 10 月 18 日 (木) 13:30~
場 所：広島県民文化センター
参加者：約 230 名うち
【17 社 54 名 (広島県測協会員)】



Ⅲ 経営委員会

第 1 回 経営委員会

- 日 時：平成 30 年 5 月 24 日 (木) 15:00~
場 所：広島パシフィックホテル
議 題

- 1 委員会構成について
- 2 平成30年度経営委員会担当事業実施方針
 - (1) 担当事業実施方針
 - (2) 事業実施計画
 - (3) 担当事業計画・予算
- 3 県内市町との意見交換について
 - (1) 基本方針
 - (2) 要望書
- 4 情報提供
 - (1) CIM（3次元CAD）体験セミナー
 - (2) 第23回中国地区測量技術講演会
 - (3) 土砂災害防止法に基づく基礎調査及び区域指定の進捗状況について（建設委員会資料）

経営委員会担当事業

1 県との意見交換会

日 時：平成30年9月10日（月） 15：00～

場 所：ひろしま国際ホテル

※ 詳細は、59ページに掲載。



2 経営者懇談会

日 時：平成30年12月6日（木） 15：30～

場 所：ひろしま国際ホテル

講 演

「おりづるタワーに込めた想い
～広島未来を見据えたまちづくり～」

株式会社広島マツダ

代表取締役会長兼CEO 松田哲也氏



3 県建設事務所長との意見交換会

日 時：平成30年12月21日（金） 16：00～

場 所：ひろしま国際ホテル

※ 詳細は、60ページに掲載。



- 4 国（4事務所）との意見交換会
日 時：平成31年1月18日（金）16：00～
場 所：ホテルセンチュリー21 広島
※ 詳細は、60 ページに掲載。



5 市町要望

(1) 安芸高田市

日 時：平成30年6月27日（水） 10：00～

場 所：会議室

参加者

（市） 建設部長，次長，管理課長

（協会） 会長，副会長，経営委員長，経営副委員長

(2) 竹原市

日 時：平成30年6月28日（木） 11：00～

場 所：会議室

参加者

（市） 副市長，総務部長，財政課長他

（協会） 会長，副会長，経営委員長，経営副委員長，地元会社（土肥理事）

(3) 江田島市

日 時：平成30年7月3日（火） 11：00～

場 所：会議室

参加者

（市） 副市長，総務部長，土木建築部長，産業部長，財政課長他

（協会） 会長，副会長，経営委員長，経営副委員長

(4) 大竹市

日 時：平成30年7月12日（木） 11：00～

場 所：部長室

参加者

（市） 建設部長，監理課長

（協会） 会長，経営委員長，経営副委員長

(5) 廿日市市

日 時：平成30年7月17日（火） 15：30～

場 所：部長室

参加者

（市） 建設総務課長

（協会） 会長，副会長，経営委員長，経営副委員長

(6) 三次市

日 時：平成 30 年 8 月 7 日（火） 10：00～

場 所：会議室

参加者

（市） 副市長，財務部長，建設部長，財政課長，部付課長

（協会） 会長，経営委員長，経営副委員長

(7) 安芸太田町

日 時：平成 30 年 12 月 18 日（火） 10：00～

場 所：町長室

参加者

（町） 町長，総務課長，建設課長

（協会） 会長，副会長，副会長，経営委員長，経営副委員長

(8) 北広島町

日 時：平成 30 年 12 月 18 日（火） 13：30～

場 所：会議室

参加者

（町） 副町長，財政課長，建設課長他

（協会） 会長，副会長，副会長，経営委員長，経営副委員長

全測連中国地区協議会からの提出議題について

国土交通省中国地方整備局

企画部長 様

平成 30 年 10 月 16 日

全測連中国地区協議会

会 長 大野木 昭夫(鳥取)

副会長 伊藤 輝泰(山口)

和田 晶夫(島根)

松原 利直(岡山)

森脇 克彦(広島)

1 地場企業の成長

中国地区各県に本拠地(本社)を置く協会員が、可能な限り参入できる入札制度についての検討をお願いしたい。

- 測量業務は、多くが県内本店に発注されているが、金額の上限等々の制約で入札参加できない業務がある。測量業務はすべて県内本店に発注していただきたい。
- 設計業務は、国交省の実績がない企業が多く、県市町村の同等の業務実績を採用していただいている。業務実績の採用方式と各事務所における採用状況等について御説明願いたい。
- 構造物点検(付属物、橋梁、トンネル)のうち、法定の定期点検業務は総合評価方式の枠内にあり県内本店企業が参画するのは難しい状況にある。県の法定点検業務における県内本店企業の実施実績は十分あり、参画できる制度を取り入れていただきたい。

また、その他の点検業務においても中国管内本支店、県内本支店、営業所の資格要件がほとんどであり、県内本店企業の参入が難しい状況にある。県内本店企業が参入できるように制度を提案するので御検討願いたい。

- ① 中国管内本支店、県内本支店、営業所を所在地とする企業と県内本店企業との共同企業体を入札要件に明示する。
- ② 企業体で参加した企業は地域精通度(鳥取県内の例①1②0.6③0)の加点をする。

2 働き方改革の推進

今回の西日本災害で実感したが、測量、設計技術者の絶対的な不足と高齢化、災害規模が大きく緊急対応の増えている現状を鑑みるに、災害対応が技術者に違法ともいえる長時間労働を強いるとともに、当該県だけでの対応が不可能な状況が現出している。災害業務の実施体系の見直しと他県からの支援に支障となっている問題点と対応策について御検討願いたい。

業務の平準化は、労働環境の改善と担い手確保に直結して、最大の効果が期待できる取組ととらえている。最近では、ゼロ国債等の活用により早期発注に取組んでいただいているが、まだまだ年度末に工期が集中している状況にある。基本的に、年間を通して平準的に発注をしていただきたい。また発注後の地元調整等々による手待ちや変更によって工期が年度末になる課題も必ず解決すべきととらえている。

国交省では、[12月 25%以上，2月 25%以上，3月 50%以下]を掲げられているが、現状と今後の取り組みについて御説明願いたい。

3 i-Construction の取り組み

CIM の取り組みについて、地区協は一昨年からは国交省 CIM の動きを広報するとともに3次元データ作成業務等の研修会を開催して、技術力の習得に努めている。今後の進捗によっては、3次元測定機器、3次元作成ソフト等々の購入、技術者の育成を検討しなければならない。CIM の進捗計画は経営投資に直結し、そんなに安い投資ではないので慎重にならざるを得ない会員の現況を踏まえて、今後の展開について御説明願いたい。

4 その他

<建機レンタルの草創期から、広島地区でも50年！>

弊社は、1965年に大阪で創業。道路機械からスタートし、土木・建築機械や建設現場で活用される各種機材等のレンタルをメインに、イベント・展示会用機材のレンタルも行っています。

全国に200ヶ所の拠点があり、広島県内での営業開始から今年で50年目を迎えています。今では県内に、高所作業車、各種レンタカーや測量測定機器や通信映像機器、配管機器などの専門店もあり、地域密着、地域貢献を目指し幅広い商品構成とサービスネットを構築しています。

広島市内の営業拠点

<営業窓口>

広島営業所	〒731-3168	広島市安佐南区伴南 1-2-1	TEL 082 (849) 1240
広島建築設備営業所	〒731-0138	広島市安佐南区祇園 6-12-14	TEL 082 (850) 3240
大州営業所	〒732-0802	広島市南区大州 1-10-8	TEL 082 (207) 0801
通信測機広島営業所	〒730-0825	広島市中区光南 2-3-37	TEL 082 (545) 2401
配管機器広島営業所	〒730-0825	広島市中区光南 2-3-37	TEL 082 (569) 5240

<商品センター>

広島便利センター	〒731-0202	広島市安佐北区大林町 766-1
広島機械センター	〒731-0202	広島市安佐北区大林町字台 534-2

※その他、県内には福山に、中国地区では米子、松江、岩国、周南および岡山に事業所があります。



<i-Construction への対応 … コンサルタント・測量会社と連携して>

弊社は建設機械以外にも現場向けの通信映像機器や測量測定機器の部門を有していたことから、『無人化施工』に関しては業界でも最先端の技術と実績を持っており、『情報化施工』においても、重機のICT化、現場とのマッチングなど積極的に施工会社様や各種コンサルタント・測量会社様と連携しながら取り組んでまいりました。

また、社内での人材育成にも注力し、数ヶ月に渡る研修を受け選任された「情報化施工専任者」約 300 名を全国に配置し、情報化施工案件への対応だけでなく、地元の建設関係の協会・団体と組んで i-Construction についての体験会やセミナーなども開催するなど、普及・拡大にも協力しています。



(ドローンや重機での実機により体験会を実施)



セミナー用教材



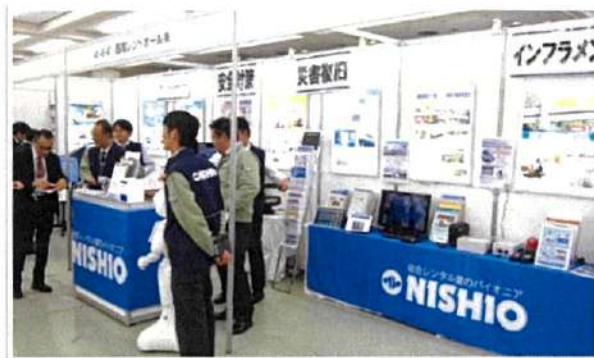
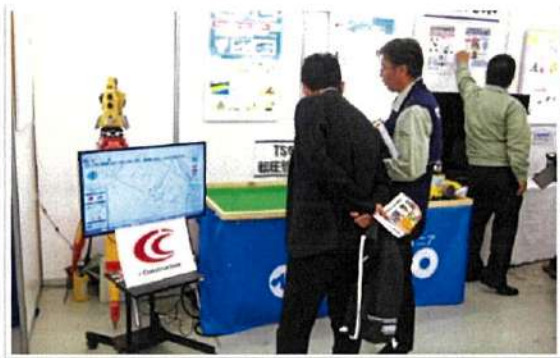
(学べるマンガシリーズ 土工編、舗装工編)

<安全対策やインフラメンテナンス関係まで幅広くご提案！>

i-Construction における、マシンガイダンス、マシンコントロール、転圧管理などの重機と測定・コントロールシステム、さらにドローン、3Dレーザースキャナーも運用にまでトータルでご用意いただける体制が整っています。

現場での実績は建機レンタル業界でも屈指の件数を誇り、あわせてコンサルタント・測量会社様との連携も全国各地で成果をあげています。今後も地域密着型の展開を図る上で地元各社様との連携は最も重視しているところです。

なお、建設のICT活用では、i-Construction だけでなく現場の安全対策や災害の復旧工事、各種インフラのメンテナンスに関するレンタル商品の開発や導入にも力を入れています。毎年の「建設技術フォーラム」でも様々な商品を表示し、最新の技術をご紹介しました。今後も建機レンタル業の立場から地元広島への貢献を果たしてまいります。



(展示会などを通じて最新の機種、実用性の高い技術をご紹介、ご提案しています)

☆中国支店のホームページも開設しています →

<http://www.tekizai2.nishio-rent.co.jp/cyugoku/>



↑ 広島機械センター兼 (安佐北区大林町)

ICT 研修センター



<会社概要>

設立：昭和 34 年 10 月

商号：西尾レントオール株式会社
(NISHIO RENT ALL CO., LTD.)

代表者：西尾 公志

本社：大阪府大阪市中央区東心斎橋 1-11-17

主な事業内容：総合レンタルおよび関連事業
建設機械・器具全般、産業用機械、通信・情報機器、
安全対策機器、イベント用品 他

資本金：8,100 百万円 (平成 30 年 9 月末現在)

売上高：86,994 百万円 (平成 30 年 9 月期)

従業員：1,847 名 (平成 30 年 9 月末現在)

東京証券取引所 市場第一部 <証券コード 9699>

マンガ広報誌
「安全くん」
キャラクター



i-Construction により加速する 土木・測量業界の省力化を最新技術でサポート。

福井コンピュータの歴史は1982年、土地家屋調査士向けシステム「図作」のリリースから始まりました。それから35年余り、測量業界におけるCADシステムのデファクトスタンダードとなった測量CAD「BLUETREND」シリーズ、またその後継商品「TREND-ONE」においては今も全国の測量・設計技術者から多大なる支持を得ており、業界トップクラスのシェアを誇っています。この測量CADで培ってきたノウハウは、土木施工分野のCADや各種システムにも幅広く応用され、電子納品、CALS/EC、CIMと時代の流れに沿った建設業務のICT化に大きく寄与してきました。近年では、建設業界における情報技術の高度化・多様化に併せて国土交通省が推進する「i-Construction」による生産性向上への取り組みなどさらなるICTの活用が急務となっています。地域社会のインフラを支える技術者のために、役立つ製品と価値あるサポートサービスで省力化・効率化を実現する最新のソリューションをご提供し、業界を全面的にバックアップしていきます。



福井コンピュータ 取り扱い製品ラインナップ

土木用システム

土木施工業向けCADシステム



工事に必要な測量計算、CAD、出来形/写真/品質管理、電子納品などをパッケージした土木施工業向けオールインワンシステム。本シリーズの電子納品関連プログラムは、全国約半数の都道府県が採用するなど、圧倒的な信頼を得ている。

3D設計データ作成システム



TREND-CORE

現場の生産性向上を目的とした「i-Construction」への対応を支援する、国産CIMシステム。

VRシステム



TREND-CORE VR

施工状況や安全対策を、実際のスケール感で体験できるハイエンドVRシステム。

測量用システム

測量・土地家屋調査士業向けCADシステム



豊富な測量計算機能と、それに連動したCADで幅広い業務に対応。航空写真等の写真や点群などの巨大データも軽快に扱えるよう、作業負担を軽減するためのエラー修正機能なども装備。宅地開発支援から登記申請図面等にも対応。

3D点群処理システム



TREND-POINT

ドローンなどで取得した3D点群データをビジュアル化し、各種計測を行うシステム。

現場端末システム



TREND-FIELD

測量現場で、測量機器とシンクロして使える、機動力抜群のポータブルCADシステム。

福井コンピュータ株式会社

中四国営業所 / 広島県広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター11F
 札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・横浜・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・山口・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

●製品の詳しい情報・カタログ請求は

福井コンピュータ 🔍 検索
<https://const.fukuicompu.co.jp>

●お電話でのお問い合わせ・ご相談は

0570-039-291
 ナビダイヤル

平成30年度広島県（本庁）との意見交換会

- 1 日時：平成30年9月10日（月） 10：30～
- 2 会場：ひろしま国際ホテル 3階「サファイア」
- 3 出席者
（県庁） 建設企画部長，建設産業課長，技術企画課技術管理担当官等
（協会） 会長，副会長，各委員長，経営副委員長，事務局長
- 4 議題
 - I 災害復旧業務について
 - 1 発災～現在（8月末）
 - (1) 1次調査・2次調査の分担決定方法や進め方など
 - (2) 災害調査業務の簡素化等（県技術企画課長通知）について
 - (3) 査定スケジュール及び優先順について
 - (4) 災害調査（緊急を要する場合）の県との契約時期・方法について
 - 2 9月以降の査定～実施
 - (1) 箇所毎の査定スケジュールの早期決定，市町の査定を含めた全体スケジュールの見通しについて
 - (2) 災害調査や災害関連緊急事業の追加調査依頼の有無・調整等について
 - (3) 査定設計業務と実施設計業務の仕分け（査定時に実施設計まで求められる等）について
 - (4) 査定設計書作成業務について
 - (5) 実施設計書作成業務について
 - (6) その他
 - 3 市町の災害復旧業務について
 - 4 その他
 - II 災害業務に関連して通常業務への影響について
 - 1 通常業務の一時中止について
 - 2 土砂法に基づく基礎調査の一時中止について
 - 3 一般業務や基礎調査の次年度繰越に伴う経営上の課題について
 - 4 今年度の今後発注予定の通常業務への対応について
 - 5 来年度の通常業務について
 - 6 その他

平成30年度広島県（事務所長）との意見交換会

- 1 日 時：平成30年12月21日（金） 16：00～
- 2 場 所：ひろしま国際ホテル
- 3 出席者
（県） 各事務所所長・支所長
（協会） 会長，副会長，理事・監事，事務局長
- 4 課 題
 - (1) 災害復旧業務について
 - ① 災害調査業務の簡素化（県技術企画課長通知）について
 - ② 災害調査業務の契約について
 - ③ 査定設計業務と実施設計業務の仕分けと今後の業務発注について
 - ④ その他
 - (2) 通常業務について
 - ① 一時中止の通常業務について
 - ② 土砂法に基づく基礎調査業務について
 - ③ 受注業務に係る経営上の課題について
 - (3) 来年度以降の業務等について
 - ① 来年度の通常業務について
 - ② 働き方改革の推進による魅力ある業界・担い手確保に向けて

国（4事務所）との意見交換会

- 1 日 時：平成31年1月18日（金） 16：00～
- 2 会 場：ホテルセンチュリー21広島 4階「クリスタル」
- 3 出席者
（国） 国の4事務所（福山・三次・太田川・広島）所長及び副所長，
中国地方整備局 企画部技術管理課長
（協会） 会長，副会長，理事，監事
- 4 議 題
 - (1) 協会員の持続発展
 - ① 道路附属物点検業務における受注機会の確保
 - ② 用地調査等業務における受注機会の確保
 - (2) 働き方改革の推進及び担い手確保・育成のための環境整備
 - (3) CIM 関連の情報の積極的な提供及び協会員に配慮した発注方法の採用

C I M推進モデル業務の実施について

1 趣旨

「持続可能な建設産業」の実現に向けてモデル業務を実施し、生産性の向上を図る。

2 内容

C I M (Construction Information Modeling/Management) 推進モデル業務

建設現場の生産性向上を図るため、計画・設計・施工・維持管理の全ての段階において、3次元モデルの導入を進める。

まずは、設計段階で、一定規模以上の新設工事の実施設計業務について、3次元データの提出を求める。

今後は、この3次元データを基に施工・維持管理を行い、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図っていくこととする。

C I Mとは

計画・調査・設計段階から3次元モデルを導入し、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルに連携・発展させ、あわせて事業全体にわたる関係者間で情報を共有することにより、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図るものである。

3次元モデルは、各段階で追加・充実され、維持管理での効率的な活用を図る。

3 施行期日

平成30年6月1日以降に指名する業務から実施

(対象部局：土木建築局)

平成 31・32 年度の測量・建設コンサルタント等業務の入札参加資格認定に係る主観的事項

1 趣旨

県の重要施策に理解を深め、事業活動を行っている事業者の社会貢献等への取組を評価するため、測量・建設コンサルタント等業務の入札参加資格認定に係る主観的事項として、暴力団離脱者の社会復帰支援事業における協力事業所の登録に関する事項、広島県働き方改革実践企業認定制度の登録に関する事項及び優良建設コンサルタント表彰に関する事項を追加する。

2 平成31・32年度の評価項目（主観数値）

現行（平成 29・30 年度）		改正案（平成 31・32 年度）	
評価項目	配点	評価項目	
業務の履行実績		業務の履行実績	
県発注業務の業務成績	0点～131点	県発注業務の業務成績	
-	-	優良建設コンサルタント表彰	
技術者の継続学習の状況		技術者の継続学習の状況	
建設系CPD学習単位数	2点～10点 ※1	建設系CPD学習単位数	
測量系CPD学習単位数	2点～10点 ※2	測量系CPD学習単位数	
建築CPD学習時間数	2点～10点 ※3	建築CPD学習時間数	
品質等の確保		品質等の確保	
ISO9001	5点	ISO9001	
県の重要施策（※県内業者限定）		県の重要施策（※県内業者限定）	
消防団協力事業所の認定※	5点	消防団協力事業所の認定※	
広島県保護観察所による協力雇用主の登録※	5点	広島県保護観察所による協力雇用主の登録又は暴力団離脱者社会復帰支援事業協力事業所登録※	
障害者の雇用※	5点	障害者の雇用※	
広島県仕事と家庭の両立支援企業登録制度の登録	5点	働き方改革の取組 広島県仕事と家庭の両立支援企業登録制度の登録 広島県働き方改革実践企業認定制度の登録	
広島県公共土木施設災害支援制度の認定	5点	広島県公共土木施設災害支援制度の認定	
広島県アダプト制度の認定（マイロードシステム、ラブリバー制度）	5点	広島県アダプト制度の認定（マイロードシステム、ラブリバー制度）	
指名除外等の状況（△減点評価）	△4点 （×除外月数）	指名除外等の状況（△減点評価）	

※1 土木関係建設コンサルタント分野及び地質調査分野に加点 ※2 測量分野に加点

※3 建築関係建設コンサルタント分野に加点 ※県内業者限定（本店又は主たる営業所の所在地が県内）

【新たに導入する評価項目】

項目	内容
優良建設コンサルタント表彰	優良建設工事等表彰事務取扱要領に基づき表彰されている場合に加点。
暴力団離脱者社会復帰支援事業協力事業所登録	公益財団法人暴力追放広島県民会議が行う暴力団離脱者の社会復帰支援事業における協力事業所として登録されている場合に加点。
広島県働き方改革実践企業認定制度登録	広島県商工会議所連合会及び広島県商工会連合会が行う広島県働き方改革実践企業認定制度において登録されている場合に加点。

(一社) 広島県測量設計業協会 会員名簿

顧問	平口 洋	会長	森脇 克彦
	山木 靖雄	副会長	福原 真爾
	狭戸尾 浩	副会長	佐々木 仁志

(50 音順)

会 社 名	代 表 者	郵便番号	所 在 地
㈱アース開発コンサルタント	飯川 松 義	737-0161	呉市郷原町7140番地の1
㈱安芸建設コンサルタント	入江 久 夫	736-0082	広島市安芸区船越南四丁目3番25号
㈱荒谷建設コンサルタント	荒谷 悦 嗣	730-0833	広島市中区江波本町4番22号
㈱イズタコンサルタント	泉田 義 博	723-0051	三原市宮浦三丁目34番10号
ウムヴェルト ㈱	平賀 勝 秀	737-0004	呉市阿賀南八丁目1番7号
㈱エイチテック	岡田 宏	720-0822	福山市川口町一丁目16番35号
㈱エイト日本技術開発広島支店	西井 彰	732-0055	広島市東区東蟹屋町15番3号
ケイ・エム調査設計 ㈱	三宅 啓 文	733-0003	広島市西区三篠町三丁目24番19号
㈱新東コンサルタント	岩本 猛	733-0002	広島市西区楠木町三丁目15番11号
㈱セトウチ	土肥 真 也	725-0004	竹原市東野町158番地の3
㈱瀬戸内開発コンサルタント	飯田 昇	733-0007	広島市西区大宮二丁目2番2号
総合技研 ㈱	久保 正 裕	737-0842	呉市吉浦東町12番17号
㈱タマルコンサルタント	田丸 隆 教	728-0016	三次市四拾貫町338-1
ダイホーコンサルタント ㈱	法堂 一 成	721-0961	福山市明神町一丁目5番38号
㈱第一総合エンジニア	藤井 利 彦	731-0102	広島市安佐南区川内二丁目3番53-7号
㈱知久設計	高杉 鶴 雄	721-0903	福山市坪生町225番地1
中国開発調査 ㈱	寺田 博 行	733-0822	広島市西区庚午中二丁目13番24号
中国工務 ㈱	山田 雅 昭	731-0101	広島市安佐南区八木八丁目21番28号
中国施設設計 ㈱	中村 和 久	732-0056	広島市東区上大須賀町1番1号
中電技術コンサルタント ㈱	末國 光 彦	734-8510	広島市南区出汐二丁目3番30号
㈱ニユー技術	高橋 茂 樹	731-5155	広島市佐伯区城山一丁目1番3号
㈱日航コンサルタント	愛須 友 行	739-0025	東広島市西条中央一丁目17番9号
NEXCO西日本コンサルタンツ ㈱	前田 良 刀	733-0037	広島市西区西観音町17番17号 ADビル
㈱ヒロコン	下花 真 二	734-0011	広島市南区宇品海岸三丁目13番28号
㈱日野原富士コンサルタント	日野原 淨 弘	731-0153	広島市安佐南区安東一丁目6番9号
広建コンサルタンツ ㈱	元 廣 和 弘	720-0822	福山市川口町一丁目7番3号
㈱広測コンサルタント	瀬尾 公 宏	739-0042	東広島市西条町西条東809番地の1
フクヨシエンジニアリング ㈱	森脇 克 彦	733-0025	広島市西区小川内町二丁目21番9号
復建調査設計 ㈱	小田 秀 樹	732-0052	広島市東区光町二丁目10番11号
ミネオカ測量設計 ㈱	峯岡 静 彦	722-0051	尾道市東尾道10番地20
明伸建設コンサルタント ㈱	福原 真 爾	733-0033	広島市西区観音本町一丁目6番1号
㈱LAT環境クリエイト	青木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北二丁目1番4号
㈱ランドコンサルタント	木原 龍 明	739-0025	東広島市西条中央五丁目23番12号
㈱陸地コンサルタント	佐々木 仁 志	739-0005	東広島市西条大坪町8番27号
ルーチェサーチ ㈱	渡邊 豊	731-0152	広島市安佐南区昆沙門台4-16-21

平成31年1月1日現在 35社

(一社) 広島県測量設計業協会 賛助会員名簿

(50音順)

会 社 名	代 表 者	郵便番号	所 在 地
アイサンテクノロジー(株)	加 藤 淳	460-0003	名古屋市中区錦3-7-14 ATビル
(株)アライズソリューション	荒 谷 悦 嗣	730-0833	広島市中区江波本町4-22
(株)イズコン	福 田 康 伴	693-0011	出雲市大津町1778-1
(株)エフ・ケー・シー	鈴 山 成 人	732-0052	広島市東区光町2-11-31
岡三リビング(株)中国支店	三 橋 範 勸	730-0021	広島市中区胡町4-21 朝日生命広島胡町ビル
(株)山陽測器	桐 木 博 之	733-0821	広島市西区庚午北1-20-9
(株)ジツタ中国	實 田 泰 之	730-0043	広島市中区富士見町16-2
(株)中建日報社	絹 井 正 博	730-0805	広島市中区十日市町2-1-8 中建ビル
(株)トリンプルパートナーズ中国	窪 田 義 則	735-0004	安芸郡府中町山田2-4-1 サンシルクII
(株)日刊建設工業新聞社	高 田 智	730-0016	広島市中区幟町3-56
西尾レントオール(株)中国支店	橋 本 宏 治	731-3168	広島市安佐南区伴南1-2-1
福井コンピュータ(株)中四国営業所	曾 澤 達 也	732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター11階
富士ゼロックス広島(株)	加 藤 喜 之	732-0827	広島市南区稲荷町2-16
前田工織(株)広島支店	栗 原 祐 治	732-0825	広島市南区金屋町3-13 タミヤビル3階
(株)マシノ	増 野 裕 人	733-0822	広島市西区庚午中1-19-23
丸栄コンクリート工業(株)広島支店	山 神 一 文	730-0013	広島市中区八丁堀14-4
ランダス(株)中国西支店	中 村 稔	731-0102	広島市安佐南区川内5-16-12

平成31年1月1日現在 17社

事務局だより

振り返ってみますと、平成30年7月豪雨災害は未曾有の大災害となりました。この災害の犠牲となられた方々に対しまして謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年7月6日は、私にとって生涯忘れることのできない一日となりました。いつも利用している八丁堀（あおぞら銀行前【立町】）のバス停では、乗客が多くて乗車することができず、仕方なくバスセンターまで行きバスに乗ることにしました。

しかし、バスセンターでバスを待つこと2時間超（バスセンター内は乗客で溢れかえっていました）、何とかバスに乗れたのは（乗ったバスは運行経路が違ったものの、途中下車すればいいかと乗車）よかったのですが、途中（3kmくらい走った地点）からバスは全く進まなくなり、そのままバスの中で翌日を迎えました。

晩御飯のことを考えると、お腹が空いてしまいましたが、飲んだり食べたりすると眠くなるので、ここは無心で我慢、我慢でした。でも、我慢できない（トイレ）方がおられました。運転手さんの機転により、コンビニの前で停車していただいて、事なきを得られました。すごく親切な運転手さんでした。

バスの中では、運転手さんの後ろの座席に座っていた年配の方が、運転手さんにバスが進まないと言って長々と文句を言っていました。災害で交通事情が悪い中での文句には、運転手さんも困り果てておられ、バスの中の全員が引いてしまいました。

時間が経つにつれて、「国道2号線は道路が陥没、途中の大きな交差点は池になって通行不能」のためバスの運行経路は変更となって、遂に帰路の途中（半分くらいの地点か?）で下車となってしまいました。家に帰宅したのは午前3時過ぎで、実にバスに6時間以上乗車していました。

この災害がいかに甚大だったのが、身をもって痛感しました。今でもバスは、災害時のようなダイヤで運行し、乗車できるバスの本数が少ない。災害前でも少なかったですが、一層少ないままで・・・

会員の皆様には、災害復旧で日々奮闘されておられることとお察しいたします。今年は亥年ですが、健康第一で猪突猛進して下さい。

（事務局 児島里砂）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は7月豪雨災害で、未曾有の被害を広島県の至るところで受けました。

協会員の皆様は、災害査定業務・関連業務に日夜作業をしておられることと
思います。

平成29年度は、40周年記念行事を行い「記念誌」を発刊させていただきました。

今年からは、「年輪」として皆様にお届けすることとなり、総務広報委員会一
同頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

また、協会員・賛助会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

最後に、広報誌作成にあたり、本号の原稿を執筆していただいた皆様に、心
より感謝、御礼申し上げます。

総務広報委員長 高杉鶴雄